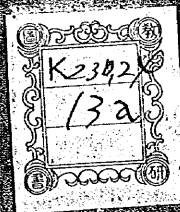
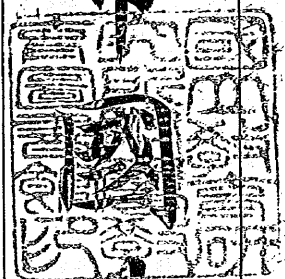
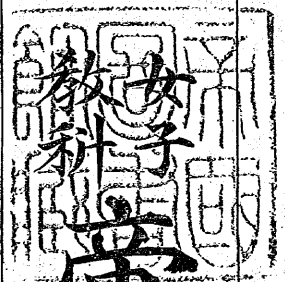


K230.24

13a



野口保興著



女子
帝國
地理

明治
40 2 18
丙午

東京

成美堂
目黒書房
合梓

女子教科 帝國地理

例言

一 本書は女子中等教育の地理科教授用に充つる爲に編纂せしものにして、外國地理、地文大意と相俟つべきものなりとす。

一 地圖を本書に挿入するは使用上、不便なるべしと信じ、別に帝國新地圖を著作して參照用に供せり。

一 本書には米突的度量衡法并に同法に屬せざるもの一二を併用せり。

一米突

三尺三寸

- 一 一 九町十間
- 一 耗 三厘三毛
- 一 方 百町八段三畝十步
- 一 噸 二百六十六貫六百六十七匁
- 一 哩 凡十四町四十五間
- 一 普通噸 凡四十立方尺
- 一 溫度は總て攝氏寒暖計即百度法に依れり。
- 一 處誌の部に於て都邑の名の右傍に〇〇を附せるは人口
- 二 萬以上并に縣廳所在地にして、を附せるは二萬未滿なり。

女子教科帝國地理目次

總説	一
境域	一
地形	二
氣候	六
天産	八
處誌	一〇
中域	一〇
本州	一一
(一) 關東地方	一一
(二) 東海地方	一三

(三) 兩濃地方	二九
(四) 北陸地方	三三
(五) 奧羽地方	三八
(六) 近畿地方	四六
(七) 中國地方	五九
四國	六七
九州	七三
北域	八三
北海道	八三
樺太	八九
南域	九一
沖繩	九一
臺灣	九二

約說	九九
住民	九九
生業	一〇五
政治	一一四
附說	一二二
韓國	一二二
關東州	一三一
南滿洲	一三二
附錄	
鐵道國表	
行政區劃表	
主要都會現住人口表	

女子教科書 帝國地理

野口保興著



境界

大日本帝國はアジア洲の東部に位せる國なり、東は太平洋に面し、北は千島海峽、オホーツク海、北緯五十度線に依てアジアロシアと境す、西は間宮海峽、日本海、朝鮮海峽、東支那海、臺灣海峽、等を隔ててシベリア、韓國、清國と相對し、南はアメリカ合衆國領のフィリッピン群島と恒春海峽を挟む。

我が帝國はアジア大陸の東岸に沿へる凡そ四千の島嶼を含みて長は一千數百里に達すれども幅は之に適はずして土地狹長なり。

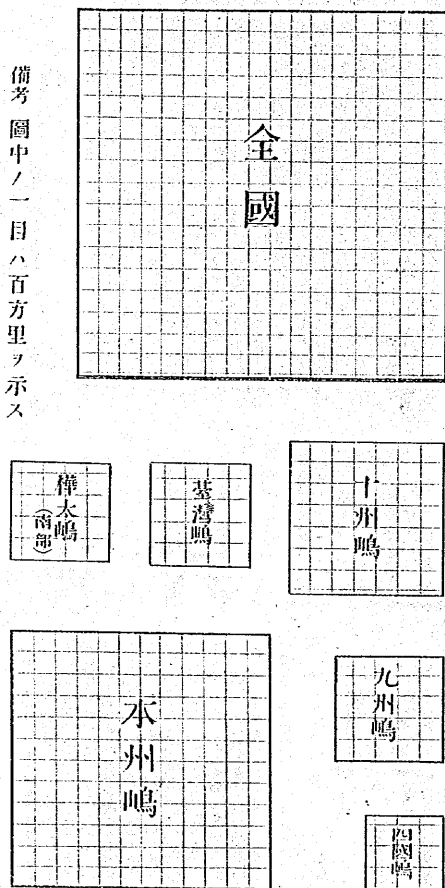
本州、十州、九州、四國、臺灣、樺太(南部)の六大島及其の屬島と千島列島、琉球列島、小笠原、澎湖の二群島等を加へば我が國は二萬九千三百餘方里(四十五萬二千方秆)あり、之に韓國、關東州を合はせば全面積は四萬三千餘方里六十七萬五千方秆に達すべし。

◎ 地形

我が四近の海は悉く太平洋に屬す、同洋はオホーック海、北海、日本海、東支那海、西海南支那海、南海、瀬戸内海、并に多くの灣、海峡を呈するが、陸地も亦半島、岬、崎をなし、海岸線の延長

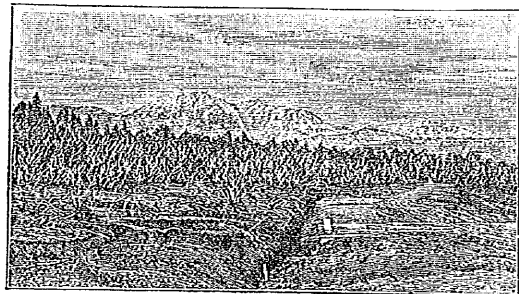
海岸

本邦各面部積比較圖



備考 圖中ノ一目ハ百方里ヲ示ス

山岳



林森と岳山(部南)島太樺

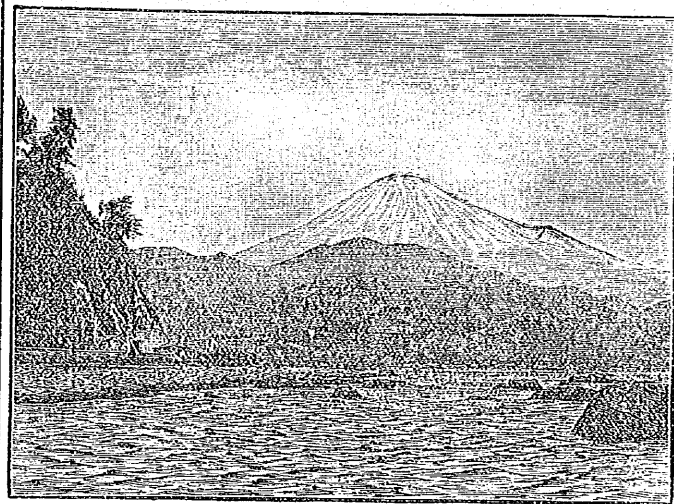
は七千八百餘里に達して、面積に比すれば頗る長けれども、其の狀態は各島一樣ならず。

我が日本群島を組成する主なる隆起帶に、北彎山系あり南彎山系あり、富士、千島、霧島の三火山脈ありて山岳、丘陵多く、地震、温泉も亦少なからず。

北彎山系は樺太、十州、本州の北部に亘りて東北、日高、北上、阿武隈、關東、

等の諸山脈より成れり。

南彎山系は九州の北部及南部、中國、四國、紀伊、赤石、等の諸



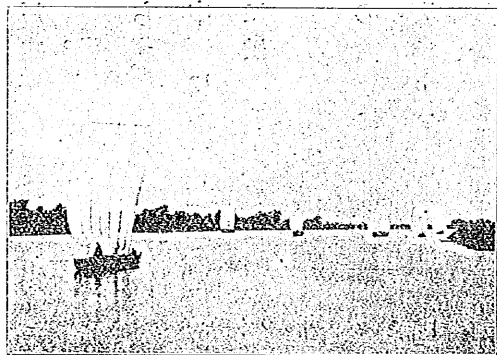
(縣別靜) 下 姥 嶺 薩 と 山 士 富

山脈を含む。

富士火山脈は南北の二大山系が相接する處にありて南北に走り千島火山脈は千島の北方より來りて十州島に入り霧島火山脈は臺灣島より九州島に達す。

以上の外尙著しきものに那須、飛騨、阿蘇等の火山脈あり、また

河流



(流下) 川 根 利

臺灣島の主山脈は東部に偏在せり。

我が邦土は太平洋、北海、日本海、西海、臺灣海峡、瀬戸内海の

六斜面に分つことを得。

太平洋斜面は廣濶にして十

勝川、北上川、阿武隈川、利根川、荒

川、天龍川、木曾川等あり、中に就

きて利根川、荒川、北上川は流勢

緩にして大なる効用を與ふ。

日本海斜面には天鹽川、石狩

川、最上川、阿賀川、信濃川、約一百

里、神通川、庄川、江川等あり。

此の他の四斜面に就きて主流を求めば、北海斜面に常呂

湖沼

川、西、海、斜、面に筑後川、川内川あり、臺灣、海、峽、斜、面に淡水河、瀬戸、内、海、斜、面に淀川等を得べし。

湖沼も亦面積の大なるものを飲けども、其の数は少なからず、本州島の西部に琵琶湖四十四方里、中海、安道湖ありて中部に霞浦、北部に猪苗代湖、八郎潟、十和田湖等あり、十州島には猿瀧潟、屈斜呂湖等あり。

地勢

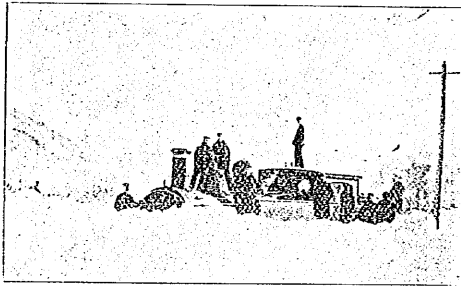
我が國の大部は高地に屬し、山地も少なからざるが、人生の發達に必要な平野は處々に存在す、即、十州島に石狩平野あり、本州島に北上、阿武隈最上、越後、關東、濃尾、畿内の諸平野あり、而して四國島、九州島には顯著なる平野なきも、臺灣島の西部には稍廣き平地あり。

◎氣候

溫度

我が國土は狹長にして南北に走るに拘らず、大部は溫帶に屬するが、近海には親潮の如き寒流、并に黒潮の如き暖流ありて、内部の起伏一樣ならざれば、各地の氣候に異同を生じたり。

雨量



(方地澤米) 車 湯 汽 の 中 母 發

最高溫度は三十八度以上に達し、最低溫度は零下四十度を超えたる處あり、年平均溫度は臺灣に於て二十一度以上なれども、北進して十州島に至れば、五度に達せざる地あり、雨量も亦地方に依りて多寡あり、年雨量は南西諸島の大島にて三千

耗以上を示し、本州島中部の高地、十州島の北部等には一千

風向

礦物



(同) 林 羅 砂

耗に及ばざる處あり、然れども梅雨の候を始とし降雨は概して多く降雪を見ざるの地少なきが、灌漑の利便あるのみならず、清水到る處に湧出して飲料に不足なし。

風向は北西及北を以て最多しとす、之に次ぐは西風にして南風、東風は少なく、九月の頃には颶風の起ることあり。

●天産

礦物の種類は少なからずして金屬には金銀銅鐵「アンチモニー」等あり、非金屬には石炭、硫黃、石油、陶土等の存在するを見る。

植物

動物

本邦は狹長なる群島より成りて南北に亘るが故に、植物の分布の状態一ならずして、榕樹、杪欏等は南部に限られ、偃松の如きは北部或は高山にあるのみなれども、松、杉、櫟、扁柏の如き木材を與ふるもの并に果樹、花卉、竹類等ありて植物は盛に繁茂し、海中にも昆布、和布の類を産す。

雉、野猪等が十州島に存せずして、鯢魚が美濃以東に産せざるが如く、動物の分布も異同あるものなり、本邦には猛獸奇獸少なく、鳥類も其の種類多からず、然れども近海には暖流、寒流あるが故に、鰹、鮪、鰯又は鰺、鮭、鱒等の魚類多く、實に世界有数の産魚地たり。

處 誌

我が國には約五千萬人の住民あるも、種族一ならずして、歴史上の關係を異にするのみならず、土地の狀況にも同じからざる所あるが故に帝國を分ちて中域、北域、南域の三とし、各域に就きて記述せんとす。

中 域

中域は本州、四國、九州の三大島并に其の屬島より成り、面積は一萬八千餘方里ありて、全國の三分の二強に當り、人口は四千七百餘萬ありて、總人口の九割以上に達し、實に帝國の主要部たり、古の五畿、七道は皆本域にあり。

本州島

屬島

本州區

本 州

本州島一、四四九二方里は南西より北北東に向ひて彎曲し、幅の最廣き中部には土地最、高き處あり、海岸線は太平洋岸に長けれども、日本海岸に短く、一は夏季に降雨多けれども、一は冬季雨雪多く、北部は中部、南部に比すれば、概して氣溫低く、雨量少なく、人口稠密ならず、本島に佐渡、隱岐、淡路の諸島、小笠原群島等を加へて本州區と爲せば其の地域廣大なり、故に之を七地方に分つこととせり。

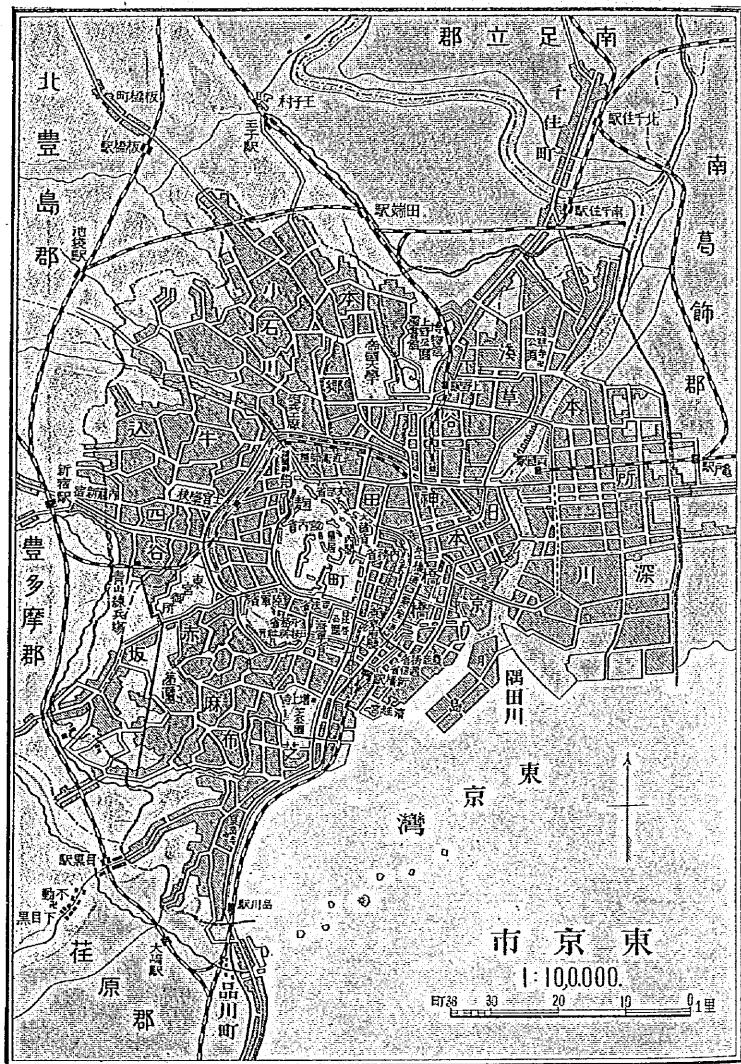
(一) 關東地方

關東地方は東と南とに太平洋を控へ、相模灣に隣接する東京灣は房總、三浦の二半島に依りて限らる、西より北に亘

關 東 地 方				府 縣		名
六 縣				一 府	八 縣	
群 馬	栃 木	茨 城	千 葉	埼 玉	神 奈 川	東 京
上 野	下 野	常 陸	安 房	武 蔵	武 蔵	武 蔵
		下 總	上 總	九 郡	一 市、三 郡	一 市、八 郡
			下 總	六 郡	相 模	伊 豆、七 島、小 笠 原 島
國				府 縣 廳 所 在 地		
前 橋	宇 都 宮	水 戸	千 葉	浦 和	横 濱	東 京

沼湖多く、灌漑の利あるのみならず、地味、氣候概佳良なれば、住民九百十二萬人多くして交通便利なり。

東京府 土地西部に高隆なれども、其の他は概平低にして、東京灣に向ひて傾き、同灣に注ぐ河流に江戸川、荒川、多摩川等あり、地域は小なれども、住民の密なること遙に他府縣



東京市
(武蔵)

の上に位し、各種の工業盛大なり、鐵道には東海道、甲武、東北、東武、總武等の諸線ありて、大抵東京に起る。

東京市は我が帝國の首府、全國最大の都會にして、關東平野の南部に位し、東京灣に沿ひ、隅田川に跨り、南北は三里を超えて東西は二里に餘り、人口は百九十二萬に達して、世界の大都會中にて第五位を占む、土地は北西に一帯の臺地をなすが故に、山の手と下町との別を生ぜり、行政上、市内を十五區とす、此の地は舊、徳川幕府のありし處にして、市の中央に皇居あり、繞らすに濠渠を以てす、各省を始とし、兵營、學校、博物館、圖書館等は宮城の周に散在し、公侯の邸第には構造の廣大なるもの少なからず、市街は市區改正事業に依りて益、面目を新にし、電車、汽車、河上汽船の設備はりて交通の便

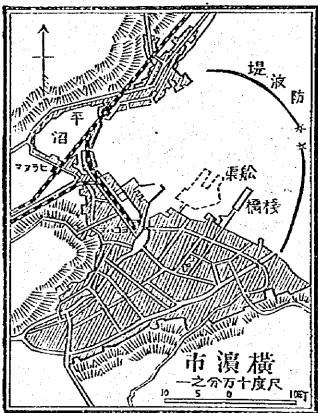
最、多く、商店櫛比し街衢縱横に通じ、車聲轆々として行人織るが如く銀座通、日本橋通、等は最、盛大なり、大社、巨刹は乏しきも、靖國神社、日枝神社、淺草寺、泉岳寺、等の名著はれ、娛樂の地としては上野、淺草、日比谷、芝、等に公園あり、また多摩川の水を疏通して市民の飲料に供す、而して本市は政治、教育、交通、商業等の大中心なるのみならず、工業も漸次隆盛に赴きて、特に書籍、新聞、雜誌の出版、學術機械の製作は實に海内無比なりとす。

品川町は東京市に隣接して錨處を有す、繁華の地なり、王子村は鐵道東北線に沿ひ、製紙、其の他の工場を有し、昔日の寒村は將に一都會と成らんとす、八王子町は西部に偏在する都會にして、織物業の一中心たるが、鐵道甲武線通ぜり。

八王子町

伊豆七島

小笠原島



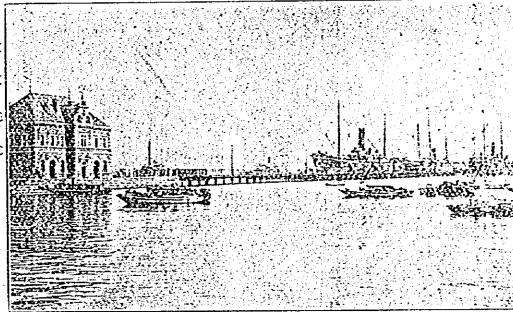
伊豆七島の主なる島は大島と八丈島となり、大島は七島中の最大、最北のものにして、三原山と稱する活火山の聳ゆるあり、八丈島の居民は漁樵、農織を營む。

小笠原島は父島、母島等より成る群島にして、熱帶的の動植物を産す、居民には多少の歸化人ありて、甘蔗の栽培、漁業、等に從事す、また硫黄島は本島に附屬す。

神奈川縣 海岸は三浦半島に於て最、屈曲し、地勢は北西部に高く、馬入川及酒匂川は蘆湖より出づる早川と共に相模灣に入る、生産には顯著なるものなけれども、鐵道には、東

横濱市
(武蔵)

海道線以外に、横須賀線あり。



(港濱横) 關税と橋棧

横濱市は我が開港場の第一に位し、帝國第四の大都會にして、縣廳税關等の所在地なり、此の地は今を距る四十餘年前には、微々たる一漁村に過ぎざりしが、目下三十三萬近くの人口を有す、街衢は到る處股賑にして、車馬の往來織るが如く、港内は大船巨舶の停繫に便にして、貨物の出入甚盛なり。

横須賀市
(相模)

横須賀市に第一鎮守府、東京灣要塞司令部あり、浦賀町は一小良港を有し、我が開港史に名あり、鎌倉町は歴史上有名



(村柳青郡玉兒縣玉埼) 圖桑

の地にして名所、古蹟少なからざるが氣候快適、風景閑雅なり、其の西に江島の勝地あり、大磯町は海水浴を以て著はれ、秦野町は煙草の産地に位す、小田原町は漁業地なり、箱根地方には温泉場多く古來七湯の名高し。

埼玉縣 本縣は海

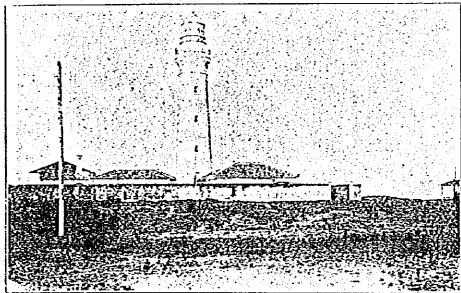
に瀕することなくして、西部に高く、荒川は利根川と共に東部の平地を潤して、麥の産額甚多く、養蠶、織物の二業も亦盛

なり、鐵道は東京より來り、東北線は大宮にて高崎線を分つ。

浦和町は縣廳の所在地なるに拘らず住民は未だ八千に達せず、大宮町は交通の要區に當り、鐵道工場あり、氷川神社あり、川越町は商業地にして縣内第一の都會たり、熊谷町は米穀、生絲を集散し、足袋を製す、秩父地方の大宮町は紡織に従事す。

千葉縣 本縣は主に太平洋と東京灣との間に於ける半

浦和町
(武藏)
川越町



大 崎 燈 臺

千葉町
(下總)

島より成りて、大崎崎の南には九十九里濱と呼ばれる處あり、南部の地方を除けば土地概平低にして、河流は縣界を流るる利根川、江戸川最著はる、域内、米産多く、鶏鶩、乳牛の飼養并に漁業甚盛にして、醬油は帝國第一の名あり、鐵道は總武房總、成田の諸線ありて東京に通ず。

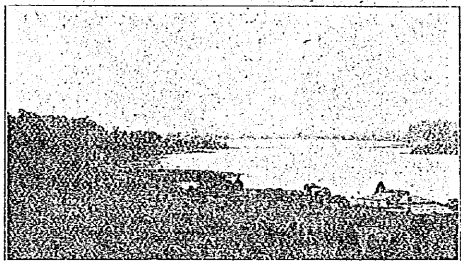
千葉町は交通の便を有し、縣廳醫學專門學校等の所在地にして縣下第一の都會なり、流山町は味淋を製し、野田町は大に醬油を造る、佐倉町の附近には木炭の産ありて、成田町は新勝寺を以て知らる、佐原町は利根川沿岸の要津なり、香取町に官幣大社あり、本銚子町は銚子、西銚子の二町と共に利根川の口に位して、縣下の要津なるが、醬油乾魚を製す。

(上總)

勝浦町は錨地を有し、漁鱸に名あり、木更津町は要津なり。

(安房)

北條及館山の二町は鏡浦に瀕し、汽船の便あり、天津町は漁業地にあり。



常盤公園より千波沼を望む

茨城縣 本縣の海岸は概して沙濱をなす、土地は北西部に高くして、筑波山の名世に高く、河流には久慈川、那珂川等あり、殊に利根川は鬼怒川、小貝川、霞浦、北浦等の水を容れて緩流す、米、麥、大豆、煙草等の農産多く、水産も亦少しとせず、鐵道には海岸線の外、向水戸より太田に、友部より小山に達する支

線あり。

水戸市
(常陸)

水戸市は那珂川に臨み、縣廳の所在地なり、舊徳川氏の

(下總)



湯降川(口先)

結城町は紬井に木綿織を産する處なり。

栃木縣 本縣は海に臨まず、土地は北西部に高くして、男體山、那須山等の火山聳ゆるが、南東

部は低平なり、河流は利根、那珂の二河系に屬し、海面上三千餘尺の地に於ける中禪寺湖は勝地にあり、農産の中、煙草、漆汁は帝國第二にして、大麻は鑛産たる銅と共に我が國第二

の名あり、工産には織物あり、鐵道東北線は縣内を貫き、小山、宇都宮等より支線を分かつ。

宇都宮市

(下野)

足尾町

栃木町

足利町

宇都宮市は縣廳の所在地にして、交通の要路に當り、市況繁華なり、鹿沼町は大麻、木材の賣買に従事す、日光町は社寺の壯觀なると風景絶妙なるとを以て其の名海の内外に轟く、足尾町に有名の銅山あり、鹽原村に温泉あり、眞岡町は綿布を産す、小山町は東北、水戸、兩毛の三線の交點なり、栃木町は生絲を集散し、足利町に絹布の産あり。

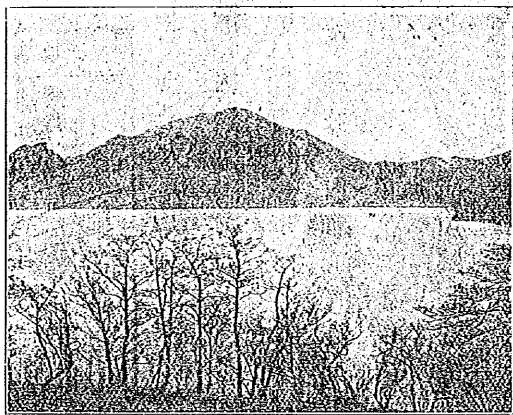
群馬縣 本縣も亦海に臨まず、土地は東北、西の三面に隆起し、赤城、榛名、妙義の三山は海拔高からざれども、其の名著はれ、河流は少なからざるが、皆利根川の河系に屬す、養蠶の業は盛に行はれ、蠶絲、織物の産額は帝國屈指なり、鐵道には

前橋市

(上野)

桐生町

高崎市



榛名湖と伊香保富士

兩毛線、信越線、高崎線等ありて、皆高崎に集まる。

前橋市は利根川に枕み、縣廳のある處にして、生絲を産し、商業繁榮なり、桐生町は織物業の中心として、大に絹布を製し、伊勢崎町に太織の産あり、高崎市は交通上の要區にして、生絲を集散す、富岡町に製絲所あり、伊香保町、草津

町は温泉地として知らる。

(二) 東海地方

東海地方は太平洋に面し、海岸屈曲少なからずして駿河

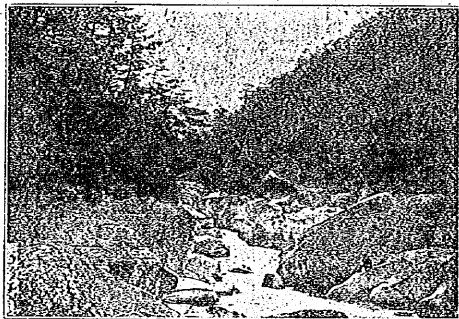
東海地方		縣		國		名		縣所在地	
三縣		山梨		甲斐		遠江		伊豆	
愛知		尾張		三河		六		靜岡	
名古屋		甲府		靜岡		名古屋		甲府	

灣、伊勢海、伊豆、渥美、知多の三半島等あり、土地概南に傾斜

して、富士、大井、天龍、木曾等の諸川は南流す、氣候概溫和なるが、特に駿河灣に瀕する地方を以て然りとす、住民の密度は關東地方に一步を讓る。

山梨縣 本縣は海に瀕せざる縣の一にして、富士山、金峰山等の山岳四境に聳え、中部に平坦なる沃地を有するが、笹子峠以西の河川は概富士川の河系に屬す、住民は少なけれども、繭生絲を與ふること稍多し、鐵道中央線は本縣を貫き、

甲府市
(甲斐)



御嶽山中の景

有名なる笹子隧道并に甲府を經過す。

甲府市は中部の平地に位し、縣廳の所在地にして、縣下第一の都會なり、繭生絲等を集散す、此の地の北方數里に、御嶽山の勝地あり、鵜澤町は富士川に沿ひ、舟運の便あり、身延村に久遠寺あり、谷村町は縣の東部、郡内と稱する機業地

の中心なり。

靜岡縣 伊豆半島と御前崎との間に、風色絶佳の駿河灣あり、山岳は火山質なる富士、天城の外赤石山脈に屬するも

静岡市

(駿河)

(伊豆)

濱松町

(遠江)

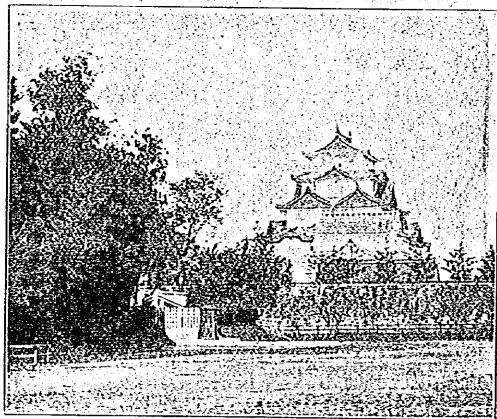
の少なからず、地勢海岸に向ひて傾斜し、主流は富士、安倍、大井、天龍等にして、湖の大なるものを濱名湖と云ふ。本縣は茶、漆器、紙等を以て主産物とす。東海道鐵道は當縣を過ぐるが三島より南方に向ふ支線あり。

静岡市には縣廳あり、淺間神社あり、漆器、竹細工を製し繁盛の地なり。沼津町は縣下の名邑にして、附近に海水浴場あり。大宮町は木材の産地に位し、洋紙を製す。清水町は開港を有す。焼津町は歴史上著名の地なり。

三島町に官幣大社あり、修善寺村及熱海町は温泉地として名あり。下田町は錨地を有す。

濱松町は天龍川の西に當りて、繁昌の地なり。三方、原村に古戰場あり。

愛知縣

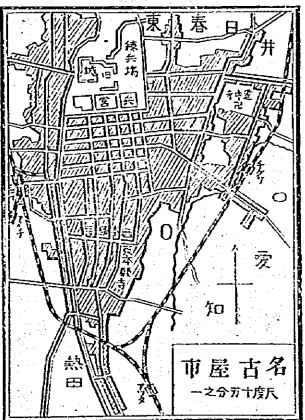


(城) 舊) 宮 離 屋 古 名

本縣には二の半島ありて、一は太平洋と渥美灣とを境し、一は知多灣と伊勢海との間に出づ。木曾川、庄内川、矢矧川、豊川は南流して土地の傾斜を示し、木曾川の流るる地方は地味殊に佳良なり。住民は頗密にして、農業は米を主とし、工業は織物、陶磁器、酒類、摺付木等を與ふること多し。東海道鐵道は本縣を過ぎ、名古屋に於て中央線、關西線と會す。支線に武豊線、尾西線あり。縣内著名なる武將の生地并に古戰場少なからず。

名古屋市
(尾張)

名古屋市は濃尾平野に位し、縣廳、控訴院、第三師團司令部、等の所在地にして、人口は二十九萬に近く、實に帝國第五の大



られ、天主閣上の金鯢は稀有の貴品たり、近傍に高等工業學校あり、熱田町に神宮あり、船舶の出入多し、瀬戸町は盛に磁器を製す、有松町は木綿絞の産地として、半田町は酢、酒等の醸造地として知らる、武豊町に開港あり。

熱田町

豊橋市
(三河)

岡崎町は綿を賣買す、豊川に瀕する豊橋市は水陸交通の便を與へ、商業繁昌なり。

(三) 兩濃地方

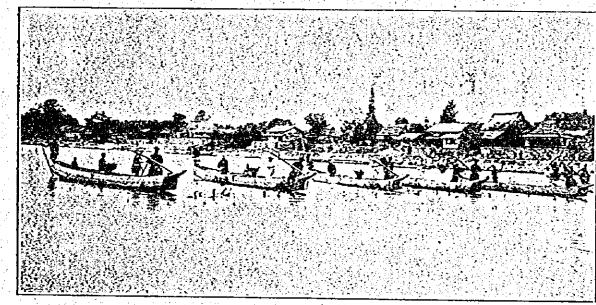
兩濃地方は海に瀕せず、飛驒山脈を始とし、木曾山脈、富士

兩濃地方		縣	國	名	縣所在地
二縣	二縣				
岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜
長野	長野	長野	長野	長野	長野

兩濃地方は海に瀕せず、飛驒山脈を始とし、木曾山脈、富士山脈、等ありて、我が最高の高原を抱き、日本海、太平洋の兩斜面に分かるるが、南西部は濃尾平野に屬す、氣候概、寒冷にして、住民は稠密ならざれども、道路は案外に發達せり。

岐阜縣 本縣は七縣と境す、飛驒高原の東部には御岳、乗鞍岳等聳え、西部には白山火山脈あり、然れども南部に於け

岐阜市
(美濃)



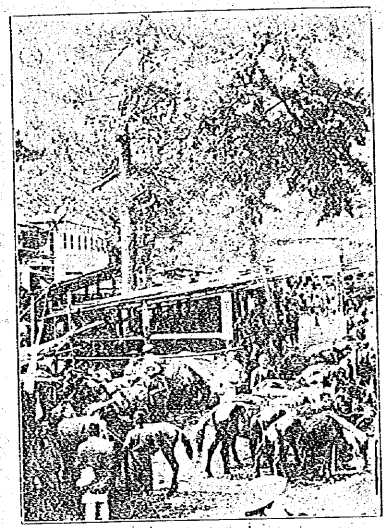
月十りよ句上月五年毎は飼鶴の川良長)飼鶴
中月十りよ句上月五年毎は飼鶴の川良長)飼鶴
船の二に船船の隻一行を之に夜暗てま使
(むしへ捕な魚香てひ使を鶴の干若各てあ使

る木曾、長、掛、斐等の諸川の流域には沃野を見る、養蠶の業盛に行はれ、工業品には織物、和紙、陶磁器等あり、殊に陶磁器は愛知縣に次ぎて産額多し、東海道鐵道は南西部を過ぎ、中央線は南東部にあり。
岐阜市は縣廳のある處にして縮緬、提燈等を産す、長良川の鵜飼は世人の奇觀とする所なり、大垣町は繁華の地なり、養老村は瀧の名所にして、關原村附近には古戰場あり、多治見町は美濃燒の中心

(飛騨)

として知らる。

高山町は山間稀に見る都會にして、生絲、漆器を産す。
長野縣 本縣は我が第三の大縣にして、八縣と境を接す、



(町島福曾木) 場市馬

川は相合して信濃川と成る、此等の諸川の沿岸には風色佳なる處あり、養蠶、製絲の二業は甚盛にして、海内無雙と稱せ
山岳は活火山たる淺間山の外、戸隠山、八岳、御岳等多く聳えて、平地の地に乏しく、諏訪湖に發する天龍川は木曾川と共に太平洋斜面に屬し、犀川、千曲

られ木曾地方には廣大なる森林ありて扁柏、花柏等を産し、又馬の飼育少なからず、鐵道には篠井に於て會する信越中央の二線あるが、中央線は鹽尻に於て分岐して、甲武線に連なれり。

長野市
(信濃)
上田町
松本町

長野市は縣廳の所在地にして、元來善光寺を以て名高く市況繁盛なり、近傍に川中島の古戰場あり、上田町は紬を産し、繭の集散少からず、更級村に觀月の勝地あり、松本町は縣下第二の都會にして、蠶種を製す、上諏訪町は諏訪湖に沿ふ、其の附近は製絲大に行はる、飯田町は天龍川の流域にありて、元結を製す。

(四) 北陸地方

北陸地方は日本海に面する狹長の地にして、若狹灣能登

北陸地方				縣	國	名	縣所在地
四縣							
福井	石川	富山	新潟	若狹	加賀	越中	越後
越前	能登	佐渡					
七				國			
福井	金澤	富山	新潟				

北流し大河の沿岸には平野あり、冬季は降雪多く、北西の強風は屢、航通

を絶つことあり、住民は粗ならず。

福井縣 海岸は敦賀灣以西に於て屈曲し、山岳は多けれども、九頭龍川の流域には稍廣き平野あり、本縣は帝國第二の機業地にして、殊に絹織を製するが、抄紙業にも亦見るべきものあり、鐵道北陸線は敦賀、武生、福井等を経て、石川縣に進む。

福井市
(越前)

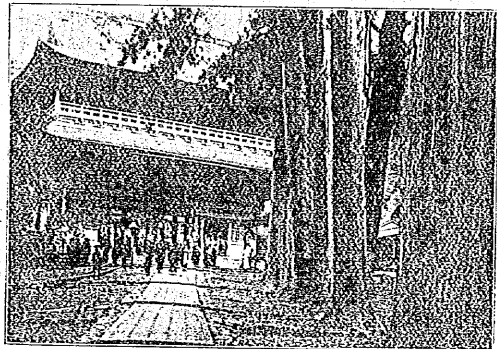
福井市は舊松平氏の城下たりし處にして、今は縣廳を置

かれ、羽二重の産甚多く、奉書紬の製造も亦行はれ、商業盛なり、三國町は一の小港に瀕す、此地の南東に當りて、永平寺と稱する古刹のある處あり、大野町は生絲を製し、武生町は双物、墨流染を産す、敦賀町は良港に臨み貿易を營む。

小濱町の近傍より漆器(若狹

塗)を産す。

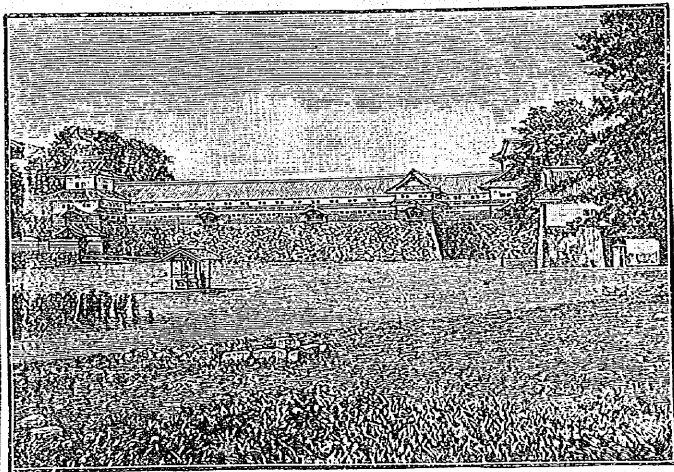
石川縣 本縣の北部は能登半島をなして七尾灣を抱き、



(村谷北志)門山寺平永山本宗洞曹

(若狹)

金澤市
(加賀)



(澤金)部令司團師九第

土地は南東部の白山地方に最、高くして、最長流は手取川と稱せられ、沿海の平野は地味稍佳なり、織物、漆器、陶器を著名なる工業品とす、鐵道は大聖寺、小松、金澤等を過ぐるが七尾線北より來りて之に會す。

金澤市は前田氏の城下たりし處なり、目下縣廳、第九師團司令部、高等

學校醫學專門學校等の所在地にして、人口殆ど十萬に達し、帝國第十の大都會なり、絹布、漆器等の製作には見るべきもの少なからず、兼六園の名世に著はる、小松町、大聖寺町に絹

布、九谷焼の産あり、山中村は盛に漆器を製す。

七尾町は開港を有し、輪島町は漆器を産す。

富山縣 北は富山灣に沿ひ土地は東、南、西の三方に高し、殊に東部には立山の峻峯あり、庄川、神通川、等北流し、北部の沃地には米産多し、鐵道は高岡に於て十字狀を

(能登)



立山地獄谷

なし、東の方、富山に達す。

富山市は神通川に沿ひ縣廳のある處にして、賣藥業の中

富山市
(越中)
高岡市



油瀨石坑(新潟縣)

心たり、高岡市は銅器を製し、縣下第二の都會たり、伏木町は射水川の口頭に於ける開港の地なり。

新潟縣 當縣は帝國屈指の大縣なり、海岸は甚簡單にして出入に乏しく、島の最、大なるものを佐渡とす、土地は東部及南部に高く、妙高山、飯豐山、等の火山あり、彌彦山、米山は海岸に聳ゆ、信濃川は阿賀川と共に廣大なる平野を潤し、耕地多くして、米の産額は石油と共に帝

國第一の名あるが、金、銅も亦産出す、鐵道に信越線及北越線ありて相連なる。

新潟市
(越後)

新潟市は信濃川の口にありて、船舶の碇泊に便利ならざれども、夙に開港場の一に算へられ、縣廳の所在地にして、漆器の産あり、沼垂町は新潟の對岸にありて、商業に従事す、新發田町は漆器を製し、五泉町に織物の産あり、長岡市は石油の産地にありて、商業盛なり、直江津町は荒川の口に位し、百貨輻湊して船舶の出入少なからず、高田町は積雪深きを以て名あり。

長岡市

(佐渡)

相川町は佐渡島の西岸にありて、海内屈指の金銀山を有す、東岸の夷港は貿易港なり。

(五) 奥羽地方

縣

國

名

縣所在地

奥羽地方					
六縣					
福島	宮城	山形	秋田	岩手	青森
岩代、磐城(七郡)	陸前(一市、十三郡)	羽前、羽後(一郡)	羽後(一市、八郡)	陸前(一市、十一郡)	陸奥(一郡)
磐	磐	陸中	陸奥(二市、八郡)	陸奥(二市、八郡)	陸奥(二市、八郡)
七					
青森	盛岡	秋田	山形	仙臺	福島

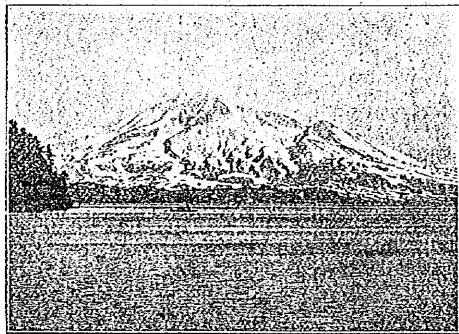
奥羽地方は

鳥海、那須、北上、阿武隈等の山脈之を南北に縦斷して北上、阿武隈、最上の

諸川は灌漑の利又は交通の便を與ふ、氣候は稍寒冷に失し、住民は甚多からず。

福島縣 本縣は帝國第二の大縣にして七縣と境し、東は太平洋に臨む、地勢東、西の三部に分かれ、那須火山脈中には磐梯山、吾妻山、等著名なるものあり、猪苗代湖の水は流れ出でて阿賀川と成り、疏水に依りて阿武隈川に通ず、地味は

福島町
(岩代)
若松市



湖代苗猪と山梯繁

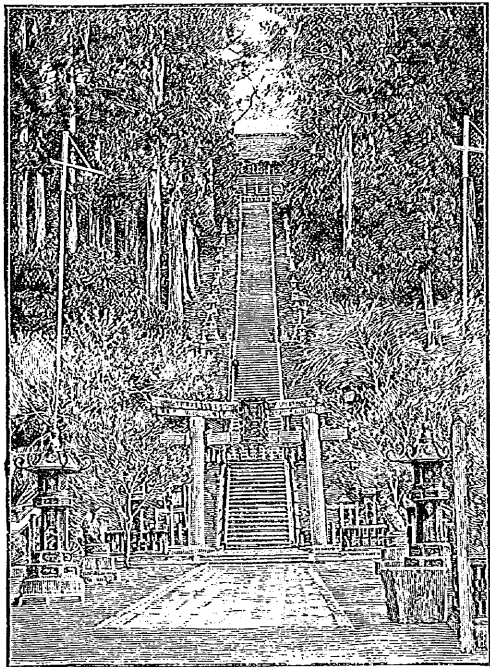
阿武隈平野、會津平野等に佳なる
を見る、馬、繭は屈指の産額を示し、
米、石炭も亦多く、蠶絲は主要産地
の、一に數へらる、鐵道海岸線、東北
線は本縣に來り、東北線は岩越線
と連なるが、福島に於て、兩羽線を
分岐せり。

福島町には縣廳あり、生絲の賣
買盛に行はれ、兩羽線の分かるる
處なり、郡山町は生絲を製し、須賀川町は馬の市場なり、若松
市は松平氏の舊城下にして、維新の際、其の名海内に轟けり、
盛に漆器、會津塗を製造す、本郷町に磁器の産あり、世に會津

(磐城)

焼と云ふ。

白河町は維新の際、激戦のありし處なり、平町の附近は石



社神龍

炭を産する
こと多し。

し、寒暖の二流は金華山附近にて相會するが故に、水産物少

處誌

仙臺市
(陸前)

なからず、沃野は北上川、鳴瀬川等の沿岸にあり、鐵道東北線は海岸線と合し、仙臺を経て北進す。

仙臺市は舊伊達氏の城下たりし處にて、現今十萬以上の人口を有し、奥羽地方第一の都會なり、縣廳、控訴院、第二師團司令部、高等學校、醫學專門學校等此の地に置かれ、仙臺平、埋木細工等を産す、鹽釜町は松島灣に沿ひ、貨船、漁舟の輻湊する處にして、此の地の附近に松島の勝地あり、日本三景の一とす、石巻町は北上川の河口に位し、縣内の要津たり、荻濱村

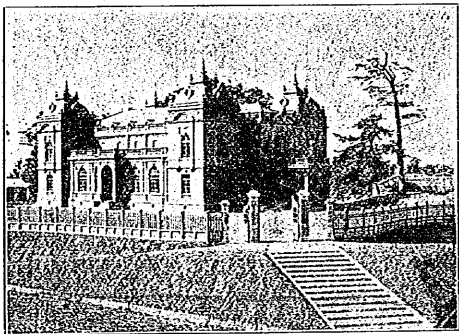


雪中行路の子女の姿
(米澤地方)

に錨地あり。

山形縣 海岸線は屈曲に乏しく、鳥海山脈中に月山、羽黒山等

山形市
(羽前)
米澤市
鶴岡町
酒田町
(羽後)



御慶事紀念會堂(秋田)

あり、河流は概、最上川に會して日本海に注ぎ、沿岸の平野は地味佳良なり、蠶絲、織物の製造行はる、鐵道は福島縣より來り、米澤、山形等を過ぎて北に進む。

山形市は縣廳の所在地にして、商業繁昌し、縣下第一の都會たり、米澤市は絲織、米澤織を産し、鶴岡町も織物の産地なり。

酒田町は小港を有し、稍盛なり。秋田縣 海岸は概、簡單にして、男鹿半島の東に八郎潟あり、河流に御物川、能代川等ありて、地勢西に低し、城内良林多く、銅の産額は

秋田市

(羽後)

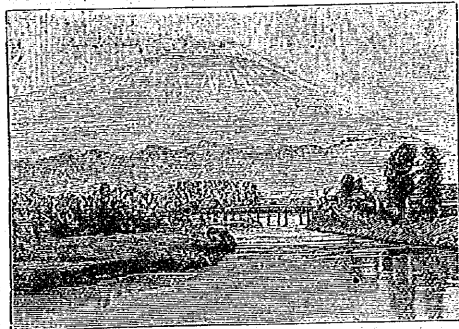
帝國第一なり、鐵道は山形縣及青森縣に通ず。

秋田市は縣廳の所在地にして、畝織八丈縞等を製し、商業繁昌なり、土崎港、町は御物川の口にありて、縣下の要津たり、

横手町は生絲を製す、院内町には金銀山あり、能代港、町は能代川に沿ひて、木材鑛石を集散す。

尾去澤、井に小坂の二村は鑛業地として知らる。

岩手縣 本縣は面積最大にして、住民は最稀薄なり、海岸は南部に屈曲多く、東部には早池峯聳え、西部には岩手山ありて、北上川は



む望を蹟古の橋川厨に井山手岩りよ川石早

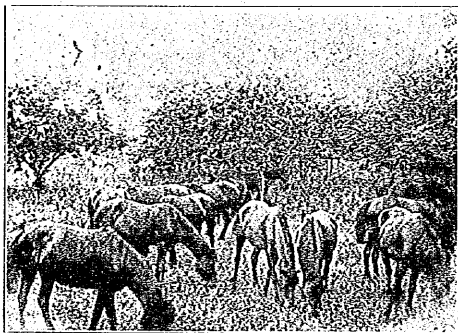
(陸中)

盛岡市

(陸中)

南流す馬の飼養は盛に行はれ、鐵の産額は他府縣に冠たり、鐵道は本縣を南北に貫通す。

盛岡市は北上川の沿岸にあり、縣廳、高等農林學校等の所



(村 水 木 三) 場 牧

在地にして、綯鐵器等を産し、商業稍盛なり、黒澤尻町は交通の要區たり、水澤町に臨時緯度觀測所あり、平泉村は中尊寺のある處なり、近傍に古蹟少なからず、一關町は商業に従事し、釜石町は鐵を製す、青森縣 當縣は本州島の北端にあり、津輕、下北の兩半島は著大なる陸奥灣を抱き、山岳には八甲

青森市
(陸奥)
弘前市

田山、岩木山、河流には馬淵川、岩木川あり、十和田湖、小河原沼は湖沼の著しきものなり、馬の飼養は盛にして、馬鈴薯の産も少なからず、弘前、青森等を連ぬる鐵道は彎形を描けり。青森市は青森灣に臨み、海陸交通の要區にして、開港場の一なり、加ふるに縣廳あり、市街殷賑なり、弘前市は第八師團司令部の所在地にして、縣内第一の都會なり、織物、漆器(津輕塗)を産す、大湊村に要港あり、三本木村は馬の育成を以て知られ、八戸町は商業地なり。

(六) 近畿地方

近畿地方は太平洋、瀬戸内海、日本海に瀕す、北東部には琵琶湖、滙え、南部には紀伊の高地あり、數條の山脈縱横に走り、巨流少なく、廣濶なる平地なし、然れども畿内平野、播磨平

野は稍大なり、此の地方は早く人文の發達せし處なれば、名所、古蹟多く、住民は頗密なり。

近 畿 地 方							府	縣	國	名
五 縣					二 府					
兵 庫	和歌山	三 重	奈 良	滋 賀	大 阪	京 都	山城	丹波(五郡)	丹後	
但馬	攝津(一市、三郡)	紀伊(一市、七郡)	伊賀(二郡)	大和	和泉	攝津(一市、四郡)	河内			
丹波(二郡)	播磨	伊勢	志摩	紀伊						
淡路										
國		五			十					
神 戶	和歌山	津	奈 良	大 津	大 阪	京 都	府	縣	廳	

滋賀縣 本

縣は海に面せ

ずして、山岳四

境に聳え、中部

に琵琶湖あり、

同湖は帝國第

一の大湖にし

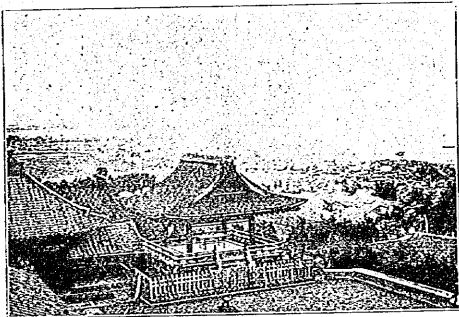
て、當縣の六分

の一に近き面積を有し、八景の名世に高し、湖の南東に當れる地方は地味肥沃なり、養畜、耕種の諸業行はれ、麻布の産は

大津市
(近江)

彦根町

他府縣の上に位す、東海道鐵道は縣内を通過し、米原、彦根、草津は鐵道の分岐點なり。

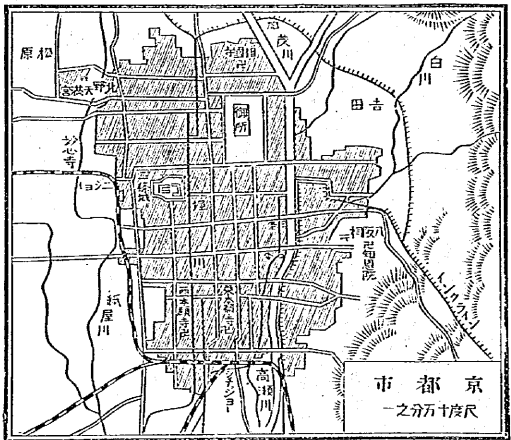


三井寺と琵琶湖

大津市は琵琶湖に沿ひ、縣廳、三井寺等あり、麻布の製造行はれて、商業盛なり、比叡山に有名の延暦寺あり、八幡町は麻布の產地にして、彦根町は井伊氏の舊城市なり、長濱町は縮緬を以て著はる、此の地の北西に當りて、姉川、賤岳の古戰場あり。

京都府 日本海の海岸は屈曲少なからず、地勢は平地に富まざれども、高山なく、由良川は日本海

京都市
(山城)



處誌

に注ぎ、木津川、桂川を受くる淀川は瀬戸内海斜面に屬す、當府は織物殊に絹布の産額甚多く、陶磁器、漆器、茶等の製造少なからず、工業實に盛なり、東海道鐵道は本府を過ぎ、京都にて他の二線と會合せり。

京都市は畿内平野の一隅にありて、東山と稱する一帯の山脈を控へ、賀茂川は其の麓を洗ひて、本市を貫流す、東西凡に一里、南北約一里半あり、市内は二區に

分たれ、人口は三十八萬人に近くして、本邦第三の都會なり、

抑、本市は一千有餘年の間、我が帝國の首府たりし處にして、街衢の整然として清潔閑雅なること、海内無比なり、此の地に府廳、各種學校、博物館、銀行、商社、等あり、織物、陶磁器、漆器等の製造あり、琵琶湖疏水は大なる利便を與ふ、風色は甚明媚にして、市の内外、名所舊蹟に富み、四季の眺望最、



所名の櫻てりあに村尾松方西の市都京山嵐
(りせ架に之橋月吐れ流を麓の其川堰大りな

佳なり。

伏見町

(丹波)

(丹後)

奈良市
(大和)

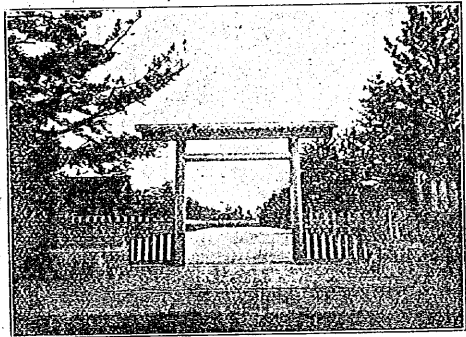
伏見町は京都の南に位し、繁華の地たり、宇治町は産茶地に位し、平等院あり、笠置村に行在所の舊蹟あり。

福知山町は由良川に瀕する要地なり。
舞鶴町は良港を有し、餘戸町は第四海軍鎮守府の所在地なり、宮津町は小港に臨む、三景の一たる天橋立は當地の北西に當れり。

奈良縣 本縣は海に臨まず、南部は土地高く、山上岳等多くの山岳聳え、吉野川、十津川は西流或は南流す、北部の大和川沿岸には沃野あり、縣内、織物、木材の産少なからず、鐵道は北西部にありて、京都、大阪の二府并に和歌山縣に通ぜり。

奈良市は縣廳、博物館、等のある處にして、木綿紉を産す、此の地は往昔帝都たりしことありて、春日神社、東大寺、興福寺、

等名祠、巨剎に富み、各處より來觀するもの陸續絶えず、郡山町は綿絲を産す、月瀬村は梅の名所なり、法隆寺村には古剎ありて、白檜村には神武天皇の御陵あり、多武峯村は談山神社の所在地とす、吉野山は史上に名高く、また櫻花を以て著はる。



神武天皇御陵

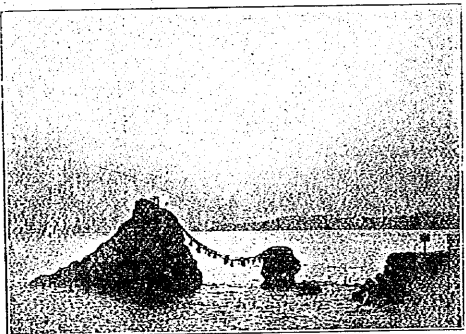
三重縣 伊勢灣の海岸は沙濱にして、一般に簡單なるが、志摩半島以西の太平洋岸は小出入少なからず、土地の大部は東に傾きて、宮川、其の他の數流伊勢灣に注ぎ、本縣は茶類、油類、水産物等を出だすこと多し、鐵道には關西

線及參宮線あり。

津市
(伊勢)
桑名町
四日市市

宇治山田市

(伊賀)
(志摩)

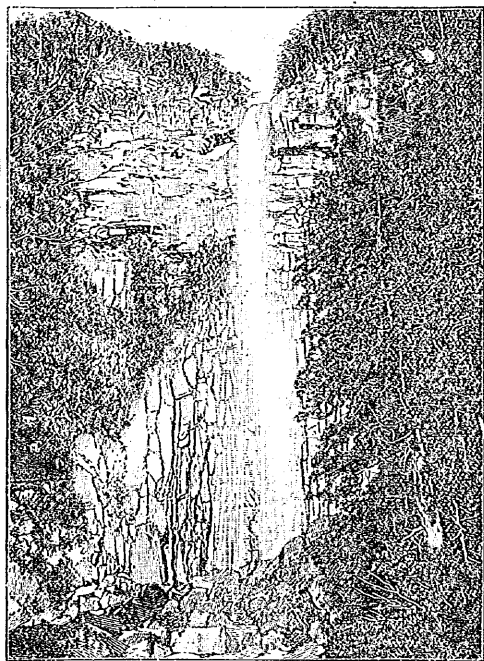


二見浦

津市は舊藤堂氏の城下なりしが、現時は縣廳ありて、綿木綿、紬子を産し、商業も繁昌す、桑名町は揖斐川の口に位して、米穀の賣買稍盛なり、四日市市は紡績、製紙、精米等の諸業行はれ、萬古燒の産あり、貿易に従事す、松坂町は木綿織の産地なり、宇治山田市には神宮ありて、諸國より參拜するもの多く、市況頗盛なり、二見浦の勝地を距ること遠からず、上野町は稍繁華の地なり、鳥羽町は良港に瀕し、頗風色に

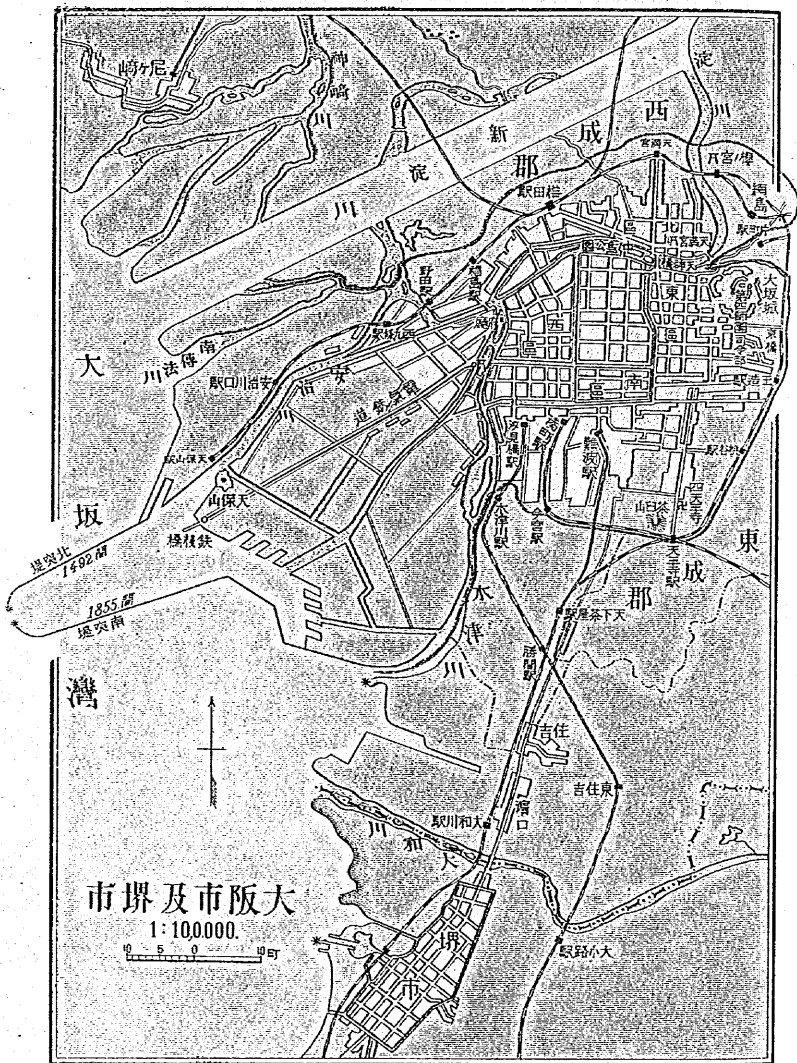
富めり。

和歌山縣 當縣は本州島の最南部にありて、海岸は屈曲に乏しからず、土地は概して高く、河流は縣界を流るる熊野



那智の瀧

川の外に、日高川、有田川、紀川等あり、漆器は海内無雙の名を有し、織物の製造も盛なり、鐵道は奈良縣又は大



大阪及堺市

1:100,000

0 5 10 町

和歌山市

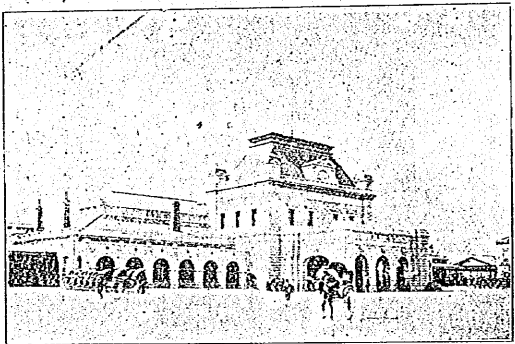
(紀伊)

阪府より來り、和歌山に於て相會す。

和歌山市は紀川の河口にあり、舊徳川氏の城下たりし處にして、今は縣廳を置かれ、綿、フランネル、雲齋織等の産あり、多量の蜜柑を集散す、本市の南方に當りて、和歌浦の勝地あり、高野村は金剛峯寺を以て知らる、黒江町は漆器、黒江塗の製作盛なり、那智村に本邦第一の瀑布あり、新宮町は薪炭の市場なり。

大阪府 本府は大阪灣に沿ひ、海岸は出入に乏し、山岳の著名なるものを金剛山とし、河流の主なるものを淀川とす、本川の沿岸地方には沃土ありて、住民の密なること東京府に次ぐ、生業は綿絲、織物、油類、酒類、等各種の工産を與ふること多し、鐵道には東海道、關西、南海、等の諸線ありて、大阪市に

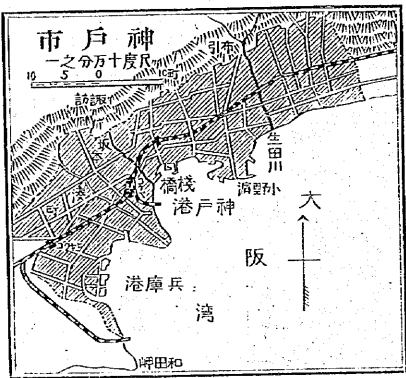
大阪市
(攝津)



梅田停車場(大阪)

會す。
大阪市は畿内平野の南部に位して淀川に跨り、大阪灣に瀕す、東西二里餘、南北二里半ありて、市内は四區に分たれ、人口百萬に近くして、帝國第二の大都會たり、府廳、控訴院、第四師團司令部、高等工業學校、等あり、水陸交通の便最、多く、外國貿易も盛に行はれて、實に海内第一の商業地たり、加ふるに工業大に興りて、綿絲の紡績、燐寸の製造等に從事す、大阪城、四天王寺、中島公園、等其の名著はる。

堺市
(和泉)
(河内)



住吉村は神社を以て、池田町は清酒の醸造と木炭の集散とを以て知らる。

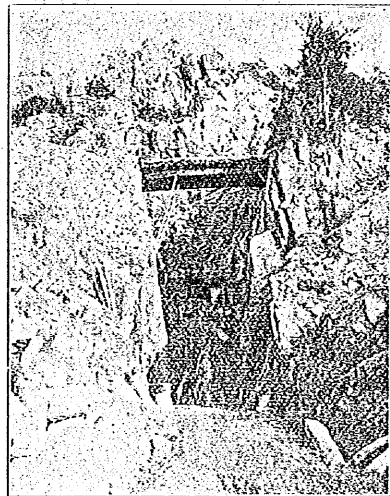
堺市は商業地にして、刃物、鐵器を製す。
千早村に有名の城址ありて、甲村に四條畷神社あり。

兵庫縣 本縣は日本海と瀬戸内海とに沿ひ、淡路島を含む、地勢南北に傾き、播磨平野を流るる加古川は稍、長し、養畜、水産、耕種の三業にも大に見るべきものあるが、殊に工業は酒類、醬油、綿絲、摺付木、等を與ふ、阪鶴線と連なる東海道線は山陽線に

神戸市
(攝津)

接續し、山陽線は姫路にて支線を發す。

神戸市は帝國第六の大都會なり、大阪灣の北西に位し、土地狹長にして、南は兵庫、神戸の二港に沿ふ、今を距ること三十餘年前、始めて互市場と成りしより、日に月に隆盛に赴きて、目下開港の首位を



(山甲六東北の市戸神)場石探

争ふに至れり、摺付木、綿絲等の産あり、縣廳、高等商業學校、湊川神社等あり。西宮町は清酒の醸造を以て著はれ、有馬町は温泉地なり、須磨

明石町
(播磨)
姫路市

村は勝地にして、一谷の古戰場を有せり。

舞子は須磨と並稱せらるる勝區なり、明石町は明石浦に瀕し、人丸神社を以て知らる、姫路市は交通の要地にして、第十師團司令部あり、革細工、高砂染を産す、龍野町は醬油を製し、赤穂町は食鹽、赤穂鹽の産地なり。

(但馬)
生野町

生野町は鑛業地にして、出石町は磁器を出だし、豊岡町は柳行李を産す。

(淡路)
洲本町

洲本町は淡路島東岸の名邑なり、由良町に要塞司令部ありて、福良町は錨地を有し、近傍より淡路燒を製出す。

(七) 中國地方

中國地方は本州島の西部にありて、中國山脈、白山火山脈東西に走り、廣大なる平野なし、瀬戸内海に瀕する地方は船

中國地方					縣	國	名
五縣							
岡山	廣島	山口	島根	鳥取	美作	備前	備中
		周防	出雲	因幡	備後	安藝	
		長門	石見	伯耆			隱岐
十國							
岡山	廣島	山口	松江	鳥取			縣所在地

船舶の碇繋に適すれども、日本海に面する處は港灣に乏し、氣候は北面の地に稍寒冷なるが、南面の地は溫暖にして降雨少なく、製鹽盛なり、住民の密度は北陸地方に似たり。

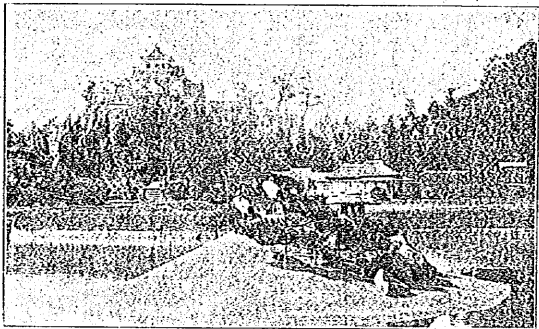
岡山縣 兒島半島出でて一灣を抱き、土地北に高くして、東西の大川及、河邊川は南流す、牛の飼養盛に行はるのみならず、莞筵、麥稈紐の如き編物は他府縣の右に位す、鐵道山陽線は本縣を通過し、岡山にて他線と會す。

岡山市
(備前)

(美作)

(備中)

玉島町



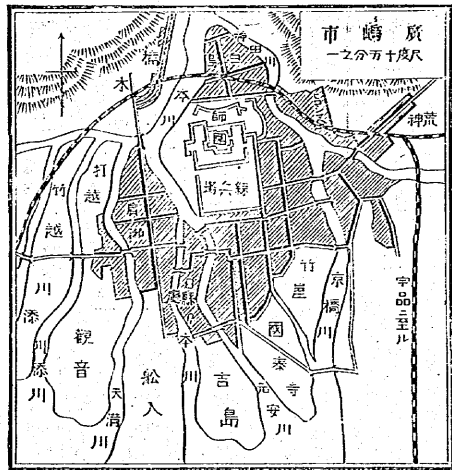
岡山市の風景

岡山市は縣廳、高等學校、醫學專門學校等の所在地なり、市街は水陸運輸の便を有し、綿絲、花、莫、莖、麥稈紐、經木、眞田等の製造行はれ、商業繁昌なり、後樂園の名は依然として天下に高し、伊部村には陶器の産あり。

津山町は東大川の上流に沿ひ、足袋を製す。

倉敷町は商業地にして、高粱町は麥稈細工の産地なり、玉島町及、笠岡町は地方の要津なり、廣島縣 海岸は出入少ならずして、西部には廣島灣あり。

廣島市
(安藝)



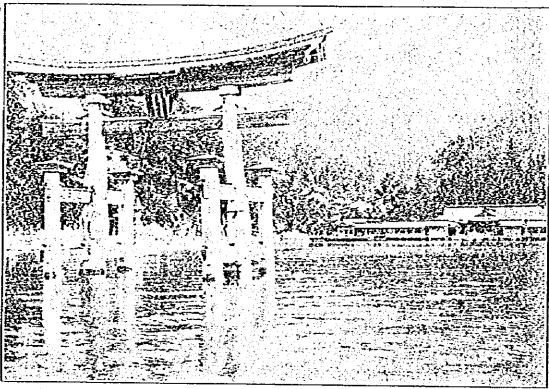
り、山陽鐵道は本縣を過ぎ、吳線と連なる。

廣島市は太田川の三角洲に建ち、縣廳、控訴院、第五師團司令部、高等師範學校、等の所在地にして、帝國第八の大都會な

り、沿岸には島嶼多く、地勢平地に乏し、水誌上は二斜面に屬し、瀬戸内海に入る主流は太田川にして、江川は遂に日本海に注ぐ、本縣は牛の飼養、大麻の栽培盛に行はれて、帝國第一の名を有し、製鹽業、織物業も有力な

吳市

(備後)
尾道市

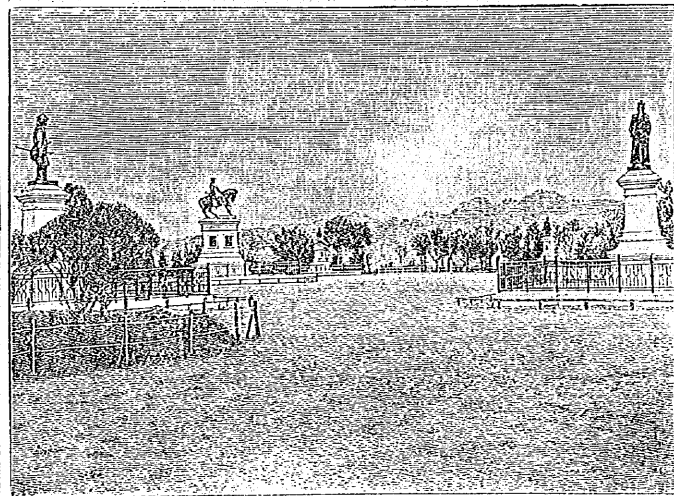


上海より嚴島神社(中社)を望む

り、宇品に築港せしより、商業盛にして、雜貨の製作も亦少な

からず、明治二十七八年の戰役以來、本市の名は大に發揚せられたり、嚴島町に嚴島神社あり、日本三勝地の一なり、吳市は第三海軍區を管する鎮守府の所在地なり、江田島村に海軍兵學校あり、忠海町に要塞司令部を置かる。

三原町は製鹽に従事し、絲崎港は貿易港の一なり、尾道市は船舶の出入少なからずして、商業盛なり、福山町は生絲



(りあ係銅の主哲の藩支及藩本)關公口山

を製す。

山口縣 當縣は本
州島の最西部に位し
て瀬戸内海及日本海
に沿ひ島嶼は大島を
以て最大とす、縣内平
地廣からず、主流は岩
國川なり、本縣の物産
中、食鹽は帝國屈指の
産額を示す、鐵道山陽
線は下關に終るも、汽
船ありて九州、韓國、等

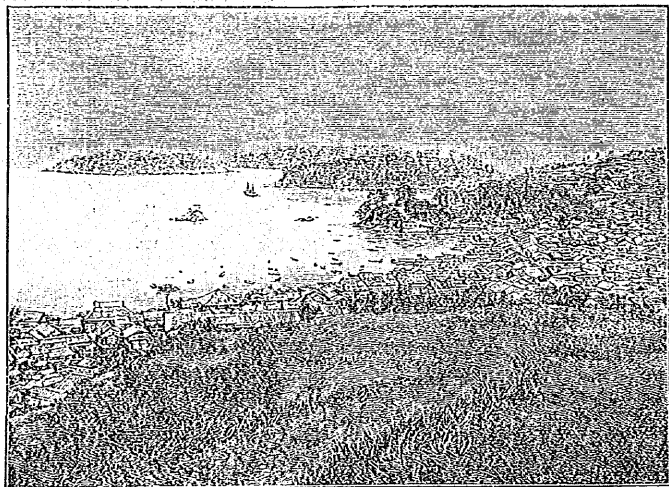
山口町

(周防)

防府町

下關市

(長門)



港 川 濱

との往來便なり。

山口町は縣廳、高等
商業學校等の所在地
なり、防府町は三田尻
港を控へ、製鹽に従事
す、徳山町に海軍煉炭
所あり、岩國町に木綿
縮の産あり。

下關市は瀬戸内海
の咽喉に當る開港場
にして、港内水深く、交
通、商業、國防等の要地

なり、市の東端なる壇浦は史上に名あり、萩町は毛利氏の城下たりし處にして、松本燒の産あり。

島根縣 海岸は北東部の外、屈曲に乏しく、隱岐群島は當縣に屬せり、土地は概平低ならずして、山には火山質の三瓶山あり、河に江川あり、湖は中海、宍道湖を大なりとす、域内、牛大麻、砂鐵等の産少なからず。

松江市

(出雲)

松江市は宍道湖に臨み、風景絶佳の地にして、縣廳あり、出雲燒の産地を距ること遠からず、杵築町に出雲大社あり。

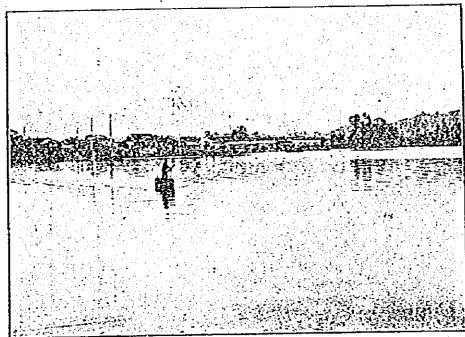
(石見)

(隱岐)

濱田町は小港を有し、貿易に従事す。西郷町は島後にありて、港に面す、竹島は日露戰爭の際に名を顯はせり。

鳥取縣 北西部に夜見、濱半島の突出せるあるも、海岸は

鳥取市
(因幡)



海中より米子町并大なる山を望む

概して出入少なく、土地北に傾きて、日野川、賀露川等日本海に注ぎ、大山、船上山は火山質なり、沿海の平地は多く綿を産するが、其の額府縣の上位にあり、鐵道陰陽連絡線は境町に起る。

鳥取市は舊池田氏の城市たりし處なり、目下縣廳の所在地なり、米子町は中海に瀕し、商業繁昌の地とす、境町は夜見、濱半島の北端に位し、山陰道屈指の要津にして、

貿易港なり。

四國

處誌

四國區
四國島

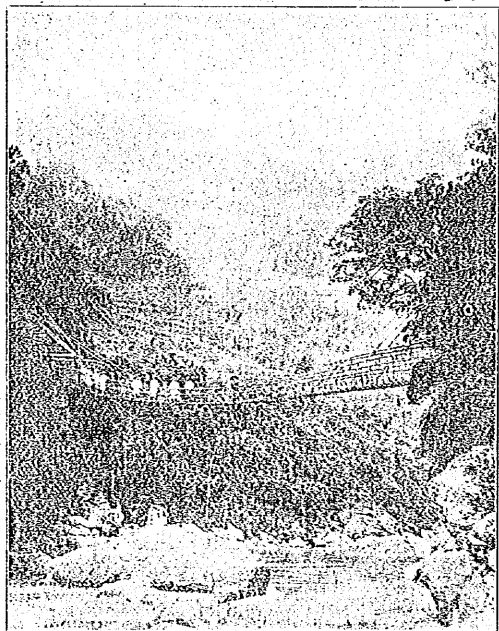
四國區の面積、人口は本州區の一割に達せずして、住民の密度は稍之より大なり、四國島は東西に長く、南北に短く、開潤なる豫讃、土佐の二灣は南北より迫りて、蝙蝠に似たる形

四 國 地 方					縣 名	縣 所 在 地
四 縣						
德 島	香 川	愛 媛	高 知	國	名	所 在 地
阿 波	讚 岐	伊 豫	土 佐			
四 國						
德 島	高 松	高 山	高 知			

地方に少なし。

德島縣 本縣は四國島の南東部にありて、太平洋、鳴門海峡、瀬戸内海に瀕す、土地は主に東に傾きて、吉野川、那珂川東流し、吉野川沿岸には沃野ありて、藍草の栽培盛に行はれ、其

德島市
(阿波)



善徳橋(德島縣祖谷地方)

の産額帝國無比なり、鐵道は德島に起りて西進す、德島市は縣廳の所在地にして、海陸交通の便を有し、綿、フ

ランネル、織等の産あり、四國第一の都會たるに耻ぢず、撫養町は縣下の要津にして、食鹽、齋田鹽の産地なり。

香川縣 本縣は内海に臨み、面積は我が諸府縣の末位にあれども、住民は甚だ稠密なり、屬島は小豆島を以て最大とす、

食鹽は帝國第一の産額に達し、砂糖の製造も亦行はる、鐵道は高松に起り、坂出、丸龜、多度津、善通寺等を経て、琴平に達す。

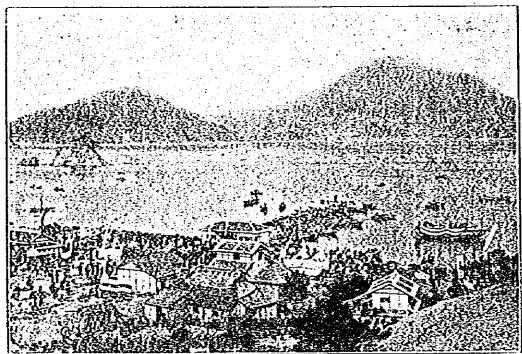
高松市は縣廳所在地にして、交通の便を有し、保多織の産あり、東に古戰場たる屋島を望みて、風色極めて佳なり、近傍に栗林公園あり、坂出町は盛に食鹽を製す、丸龜市は商業繁昌の地



(社中幣國)宮羅比刀金

高松市
(讃岐)

丸龜市



島居興りよ(西北の濱津三)町濱高
む望な灣良由に井(土)宮小豫伊)

にして、多度津町は水陸運輸の便を有す、善通寺町は第十一師團司令部のある處にして、琴平町は金刀比羅宮を以て著名なりとす。

愛媛縣 島嶼は其の數少なからず、豫讃灣の西に於ける道後半島の海岸は單調なれども、佐田半島以南には屈曲多く、山岳は石鎚山を以て最高とす、河流は三方に流れ、道後附近には肥沃なる平野あり、産物には銅、織物、蠟等あり、鐵道は松山、道後、三津濱等を連絡す。

松山市
(伊豫)

松山市は縣廳の所在地にして、伊豫絛の産あり、繁盛の地とす、近傍に道後温泉あり、三津濱町は一の要津たり、今治町は木綿織を出だす、別子山村は銅山を以て知られ、新居濱村に食鹽の産あり、宇和島町は南部の商業地たり。



高知市より吸江灣を望む

高知縣 本縣は太平洋に沿ひて彎形を呈し、室戸、蹉跎の二岬は土佐灣を抱く、城内、平地少なく、吉野川は東流して、徳島縣に入り、仁淀、渡の二川は土佐灣に注ぐ、水産業の盛なること帝國屈指の地方に數へられ、和紙の産額は無比の名あり。

高知市
(土佐)

高知市は吸江灣に瀕し、縣廳所在地にして、市街繁華なり、浦戸、村井に須崎町は縣下の要津にして、宿毛町の近海は珊瑚を産し、室戸村は捕鯨に名あり。

九州

九州區
九州島

九州區は面積、人口共に本州區の凡一割九分に當り、九州島を以て主部

九州地方									
七縣					十國				
福岡	大分	宮崎	長崎	佐賀	熊本	鹿兒島	福岡	大分	宮崎
筑前(四郡)	豊後(二郡)	日向	肥前(二市六郡)	肥後(一市八郡)	壹岐		福岡	大分	宮崎
筑後	豊前(二郡)						福岡	大分	宮崎
大隅	薩摩						福岡	大分	宮崎

とす、本島の海岸線は他の大島に比して、最發達し、沿岸は船舶の往來繁く、内部には南

北の九州山脈、阿蘇、霧島の二火山脈等ありて、平野廣大ならざれども、石炭に富める北部には多くの鐵道敷設せられ、陸上の交通に大なる便を與ふ。

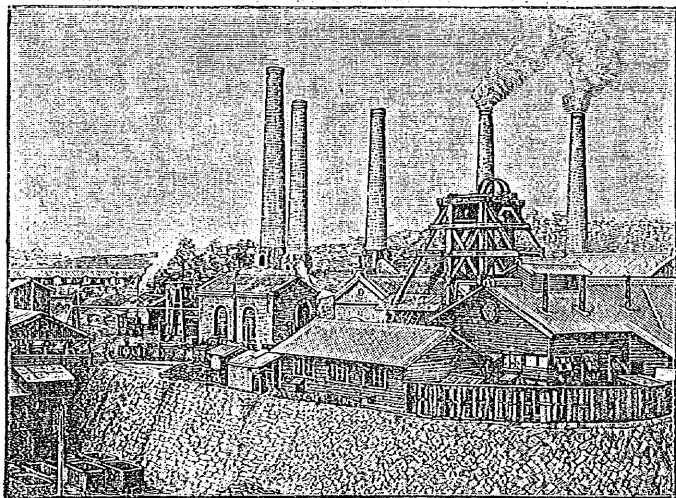
福岡縣 本縣は九州島の北部にありて、瀬戸内海、下關海峡、日本海、有明海等に沿ひ、日本海に面する處は屈折少なからず、土地は三方に傾斜し、有明海斜面に筑後川ありて沿岸の地味佳良なり、住民は稠密にして、各種の生業に従事し、米、酒類、蠟等は帝國屈指の産額を示す、殊に鑛業は多量の石炭を採掘し、全國總産額の過半は當縣より出づ、鐵道は門司に起り、小倉、福岡、久留米、其の他多くの地を連ねて最、錯綜せり。福岡市は黒田氏の舊城地、九州第二の都會なり、市街は福岡灣に沿ひ、福岡、博多の二部より成りて、縣廳、醫科大學等あ

福岡市
(筑前)

若松町

久留米市

(筑後)



七 浦 炭 坑 (三) 池 町

り、博多織の産あり、博多港は貿易場たり、箱崎町及香椎村に有名な神社あり、若松町は開港地にして、盛に石炭を輸出す、此の地の南方に當りて、枝光製鐵所あり、太宰府町は神社を以て著はる。久留米市は木綿緋を製し、大川町は小港を有す、三池町には盛

大牟田町
小倉市
(豊前)
門司市

大なる炭坑ありて、大牟田町は石炭の集散地なり。
小倉市は軍備上、樞要の地にして、第十二師團司令部あり、



(社大第官)社神佐宇

門司市は下關海峡に沿ひ、形勝の地に位して、交通の要衝に當り、貿易港として、盛に石炭を集散す船舶の出入甚多く、帝國第一とす。

大分縣 本縣は瀬戸内海及太平洋に面し、地藏崎以北には國東半島、別府灣等を見るに過ぎざるが、以南の海岸は鋸齒狀をなせり、地勢山岳多くして、祖

大分町
(豊後)
(豊前)

母岳、由布岳等あり、河流の長きは、大野川にして、西部には筑後川の上流あり、縣民は林業、水産業等に從事し、又疊表の産多し、鐵道は福岡縣より來りて、宇佐驛に達せり。

大分町は縣廳のある處にして、別府町は溫泉地なり。
宇佐町は神社を以て著はれ、中津町は織物を製造す、山國川の上流に耶馬溪の勝地あり。

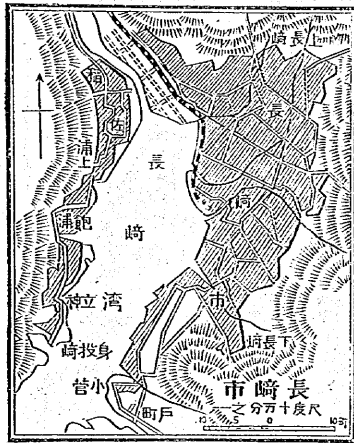
宮崎縣 海岸は概して單調なり、地勢西に高くして、市房山、霧島山等縣境に聳え、五箇瀬美々津、一瀬、大淀の諸川は皆東流して太平洋に入る、林産物、銅等少なからず。

宮崎町
(日向)

宮崎町は大淀川に瀕し、縣廳の所在地なり、都城町は縣下第一の都會なり、油津町、井に細島町は小港を有す、延岡町は五箇瀬川に沿ひ、椎茸の産地にあり。

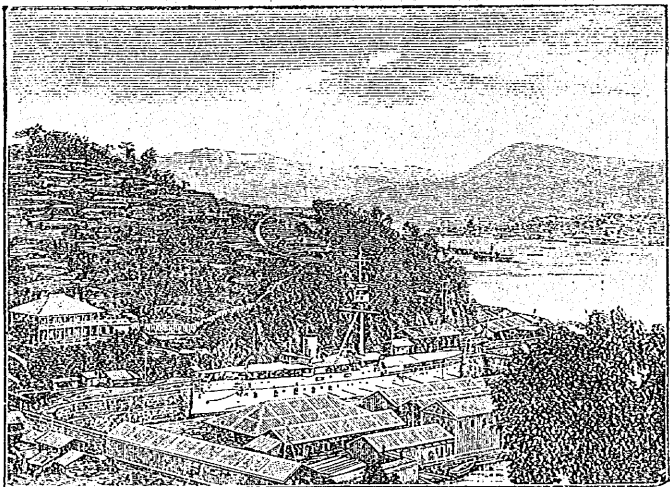
長崎縣 本縣は九州島の北西部にありて、有明海に瀕し、海岸は屈曲に富めるが港灣に、島原、長崎、大村、佐世保、伊萬里等ありて、半島に彼杵島原等あり、島嶼に五島平戸、壹岐對馬等あり、養畜業は牛、馬等を與へ、水産業も亦見るべきものあり、鑛業は主として石炭を採掘す、鐵道は長崎、佐世保等を連ねて、佐賀縣に通ず。

長崎市
(肥前)



りしが、目下尙帝國重要な商港に數へられ、人口は十五萬を
超え、實に本邦第七の都會なり、縣廳、控訴院、要塞司令、部造

佐世保市



(港 崎 長) 渠 船

船所等あり、鼈甲細工、唐木細工を産す、近傍に醫學專門學校あり、高島村は石炭を出だす、小濱村は溫泉地にして、口津村は開港場なり、佐世保市には第三海軍區の鎮守府あり、軍事上、重要な地とす、福江村は五島にありて、捕鯨製鰯に従事す、鷹島は元寇の際、名を著はせり。

對馬

嚴源村は鹿見佐須奈の二村と共に貿易に従事す、竹敷村に要港あり。

佐賀縣 壹岐海峽に面する處は東松浦半島の突出ありて、屈曲多けれども、有明海に瀕する地方は簡單にして、平地狹からず、本縣の產物中にて石炭、陶磁器は帝國屈指の產額を示す、鐵道九州本線は縣内に通じ、鳥栖より分岐せる長崎線は、更に二條の支線を出だす。

(肥前) 佐賀市

佐賀市は舊鍋島氏の城下たりしが、今は縣廳の所在地にして、商業も稍盛なり、唐津町は貿易港を有す、相知村に炭田あり、縣下第一と稱せらる、名古屋村は文祿の役秀吉が行營を置きし處なり、有田町は磁器製造の中心、武雄町は溫泉地として知られ、住江は開港場なり。

熊本市

(肥後)

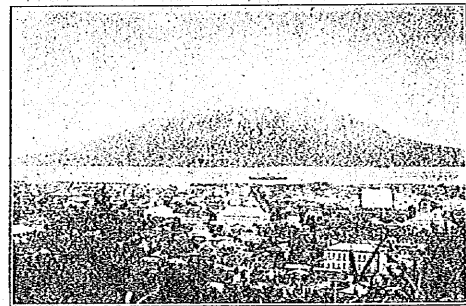


(山蘇阿)口火噴

熊本縣 本縣は有明海と八代海とに面し、海岸は屈曲多からず、宇土半島の西にある群島を天草と云ふ、最著名なる山は阿蘇山にして、活火山の一なり、土地は東に高く、菊池川、白川、緑川、球磨川等皆西流す、馬の飼養は盛に行はれ、粟の產最多し、鐵道は南下して八代に達し、支線は三角に至る。

熊本市は舊細川氏の城下たりし處にして、明治十年の役大に名を知られ、現時は縣廳、第六師團司令部等の所在地た

り、近傍に高等學校、高等工業學校あり、田原村は西南の役、激戦ありし地なり、山鹿町は温泉を有す、三角町は貿易に従事せり、八代町は球磨川に臨む、天草島に陶土、無煙炭の産あり。



鹿兒島市より島嶼を望む

鹿兒島縣 本縣は九州の南端に位して、南薩、大隅の二半島并に櫻島、種子島、屋久島、甌列島、奄美群島等より成る、霧島火山脈中に開聞岳、櫻島岳等あり、河流の最、長きものを川内川とす、牧馬、産金の地として有名なるが、煙草の栽培も甚盛なり、鐵道九州南線は鹿兒島に起り、加治木を経て北進す。

鹿兒島市

(薩摩)

(大隅)

鹿兒島市は舊島津氏の城下たりしが、今は縣廳、高等學校等あり、木綿、緋、陶器(薩摩燒)等の製作行はれ、交通上の要區にして、商業も亦盛なり、此の地の城山は西郷隆盛が戦死せし處とす、谷山村は馬を飼養し又錫の産出あり、加治木村は縣内屈指の名邑なり、國分地方は煙草の産地として最、有名なり、大島に黒砂糖、紬等の産あり。

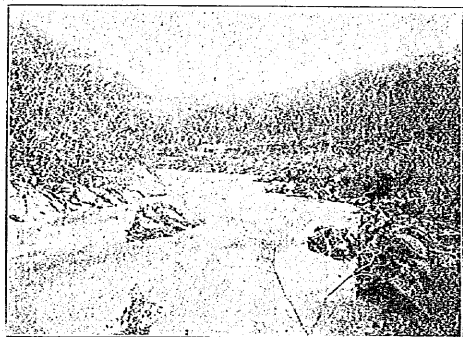
北 域

北域は十州島、千島列島及樺太より成る、十州島并に千島列島は北海道廳に管理せられ、樺太には民政署を置く。

北海道

北海道は四國、九州の兩區を合はせたるものより大にし

十州島

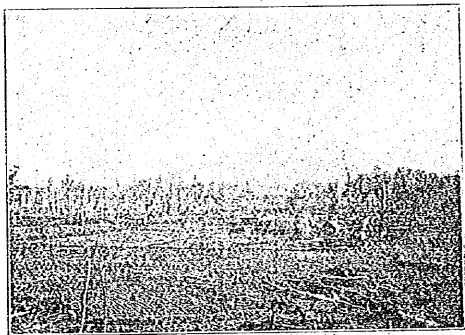


(川狩石) 澤古居神

て、凡本州區の四割に當れる面積を有するが、人口は甚少なし、然れども移住者も漸増加するが故に、二三十年の後には數百萬の住民あるに至らんか、舊土人即アイヌは一萬八千人に達せず。

十州島は十國（渡島、後志、石狩、天鹽、北見、釧路、根室）を含み、帝國第二の大島にしてオホーツク海、太平洋、津輕海峡、日

本海、宗谷海峡に面し、膽振灣、渡島半島は南西部に位し、主要なる岬に宗谷、知床、襟裳等があるが、海岸は出入少なく、屬島は禮文、利尻、奥尻等著名なり。

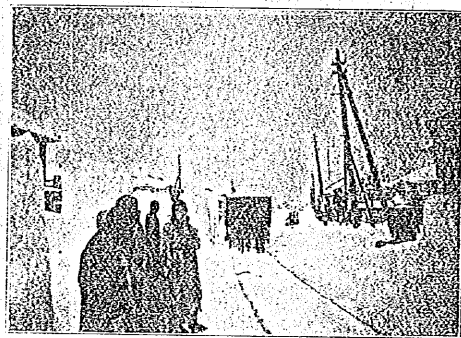


リプヌリカマと地盤圖

山岳は東北山脈、日高山脈、千島火山脈等に屬して、ヌタクカムウシベ、石狩岳、雌雄の阿寒岳、マクカリヌプリ等皆人に知られ、平地は石狩川の流域に廣く、南東平原は十勝釧路根室に亘れり。

河流には信濃川に次げる石狩川ありて、天鹽川と共に日本海斜面に屬し、北海斜面には湧別川、常呂川ありて、太平洋斜面には西別、釧路、十勝の諸川を見る、又湖沼は猿瀧、潟屈斜呂湖、洞爺湖等を大なりとす。

本島は帝國中にて北方に位するが故に、其の溫度が低き



函館の中

は怪むに足らず、雨雪の量是一般に少なし。

生業は漸次發達し、小豆、麥、大豆、馬鈴薯等の農産は首位を占むるが、鯉、鮭、鰻等の水産、石炭、硫黄等の鑛産之に次ぎ、此の他に林産、工産等あり、交通は次第に便を加へ、函館より起れる鐵道は、小樽、札幌等を経、岩見澤に至りて、室蘭より來れるものと相會し、旭川に進みて、更に二派に分かれ、一派は釧路に、一派は稚内に達せんとす、此の外に小支線少なからず、航路には神戸、小樽線、小樽、稚内網走線、函館根室紗那線等

札幌區

あるのみならず、青森、函館間の交通便にして、小樽、樺太間にも定期航海あり。

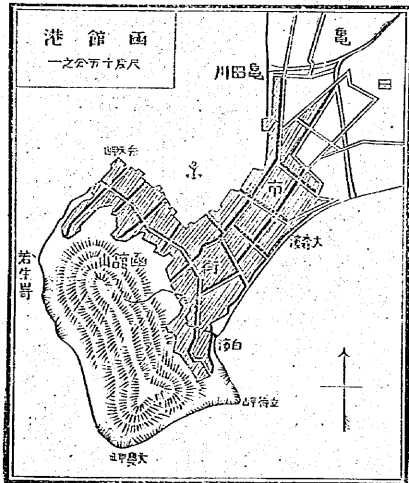
小樽區

札幌區は石狩川の支流に沿へる都會にして、道廳、地方裁判所、農學校等あり、街衢の整然として、區劃の正しきこと帝國第一とす、製麻、製粉に従事する會社あり、ビール、農具等を製する處あり、附近の地は盛に林檎を産す、小樽區は北域第二の都會にして、水陸の便を備へ、商業甚盛なるのみならず、岩内町と共に水産業に従事し、奥尻島も亦漁利に富めるが、江差町の漁業は振はず。

函館區

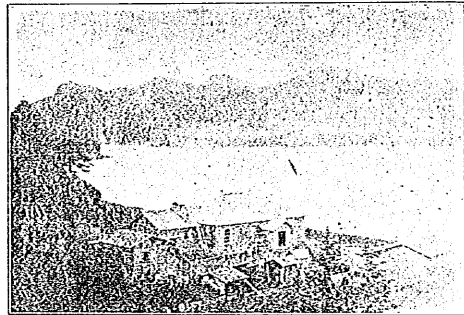
函館區は本島第一の都會にして、凡九萬の人口を有す、海陸交通の要衝に當り、控訴院、地方裁判所等あり、市街は一小半島に跨り、港内水深くして、巨船の碇泊に便なり、市の北方

旭川町



に於ける五稜、廓は目下要塞砲兵大隊の營所たり、室蘭町は交通の要地にして、通商を許さる、沙流川下流の佐、瑠太、村は舊土人の集窟たり、新、冠には御料牧場あり、岩、見澤村は交通の要區にして、石炭の輸送多し。
旭川町は石狩、忠別、兩河の會流地に位し、第七師團司令部のある處なり、釧路町は釧路川に沿位して、地方裁判所を有せり、漁業、交通上重きを置かる、増毛

千島列島



(島丹色) 場役村と丹色

町は日本海に沿ひ、漁業を以て著はる、稚内町は宗谷海峡に瀕して、海産物を取引す、禮文、利尻の二島は漁業地として名あり。

千島列島は國後色丹、擇捉、得撫、幌筵、占守等の三十二島より成り、北東より南西に亘ること三百餘里にして、二十餘の火山聳ゆ、氣候寒冷に過ぐるが故に、住民四千五百餘人、甚な稀なれども、

鮭、鱈、鰯、鰺、等、の天産少なからず。

樺太

樺太はポーツマス條約に依りて、我が國の領土と成りた

るものなるが、樺太島の南部、北緯五十度以南の地にして、約二千三百六十方里あり、南は宗谷海峽を以て十州島と境し、東はオホーツク海、西は日本海に臨み、北はロシアのサハリンと境を接せり。

海岸は出入に乏しく、近藤岬と重蔵岬との間に東伏見灣ありて、片岡岬の西に七郎灣あり、山脈は概南北の方向を取り、島内、山岳、丘陵多く、平低の地に乏しく、河流の著しきものをボロナイ、ススヤとす、湖沼も亦少なからず。

温度は一般に低けれども、南部と西部とは稍温暖なり、快晴の日は甚稀にして、濃霧の襲來を見又は積雪の丈餘に及ぶ處あり、風力概強大なり。

住民はアイヌの外幾人あるべきか、未詳ならず、生業は水

ウラヂミロ
フカ

産業を以て第一とし、鯨、鱈、鮭等を與ふ。

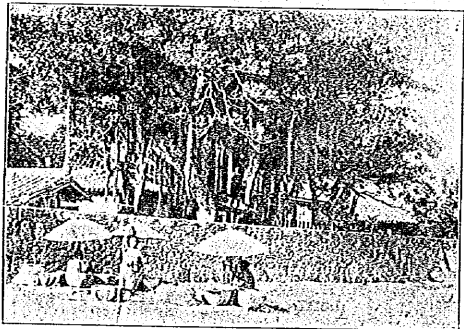
ウラヂミロフカはススヤ河に臨めり、民政署の豫定地なり、尤春、古丹は東伏見灣の中部にありて、樺太第一の良港なりと云ふ。

南 域

南域は沖繩群島、先島列島、臺灣島、澎湖群島等より成る。

沖 繩

沖繩群島は沖繩島を以て主島とし、先島列島は宮古諸島と八重山諸島とに分かれ、共に沖



(新那)「ルマツガ」
すだ出を根氣てしに固同と樹榕

繩縣の管轄に屬す、土地狹隘にして、高山、大河なく、氣候溫暖、降雨少からず、生業の首位を占むるものは農業にして、甘藷、山藍等を與へ、牧業は盛に豚を飼養し、工産には砂糖、泡盛、織物等あり、内地、臺灣との交通は案外に不便ならず。

那覇區

那覇區は沖繩島の南西岸にあり、本縣第一の都會、縣廳の所在地にして、木綿、絨、芭蕉布、漆器等を産し、港は便ならざるも、船舶の出入少なからずして、外國との貿易を許さる、首里區は舊王城のありし處にて、芭蕉布、木綿絨を製す。

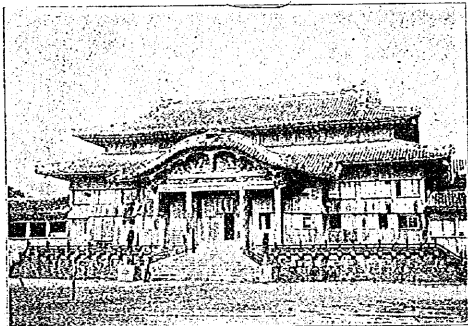
首里區

臺灣

臺灣は九州區より小にして、本州區の凡一割五分の面積を有し、臺灣島、澎湖群島等より成れり。

臺灣島

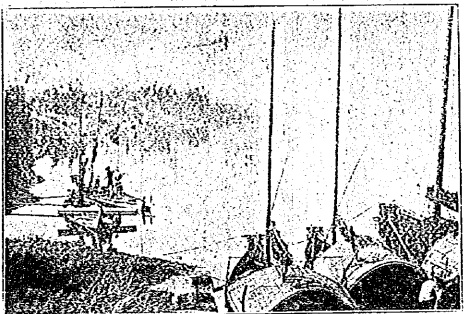
臺灣島は太平洋に沿ひ、又、臺灣海峡に瀕するが、海岸線の



(里首るらせ川充に舎校は今當) 殿正城王莒

發達は不充分にして、港灣少なく、半島に恒春あり、地角に富貴角、三貂角、南岬等あり、西部には低平の地あれども、東部の地は高隆にして、新高山、雪山等の秀峰聳ゆ、殊に新高山は一萬四千尺以上の海拔ありと云ふ、河川の稍、長きものは西流し、淡水河、大甲溪、大肚溪等其の名著はる、又、屬島は多からざるが、澎湖群島は澎湖、白沙、漁翁、其の他の諸島より成り、珊瑚質にして、良港を抱けり。

氣溫は概、高くして、年平均溫度は二十度を下らざれども、



淡水河

最高温度は内地と大差なく、雨量
 少なからずして、高山には降雪を
 見ることあり、風害稀ならず。
 人口は多からずして、密度は帝
 國の平均より遙に少なく、生蕃は
 十萬餘人に止まり、内地人外國人
 の如きは一層少數にして、大多數
 を占むるものは支那種族なり。
 生業中にて最、發達せるは農業
 にして、米、豆、甘藷、黃麻、苧麻等
 を産し、製品は茶、砂糖を著しと
 す、此の外、樟腦、木材、家畜、牛、豚
 等あり、水産業、工業等も行はる、
 貿易港の主なるものを淡水、基隆、
 安平等とし、茶類、樟腦、米穀、



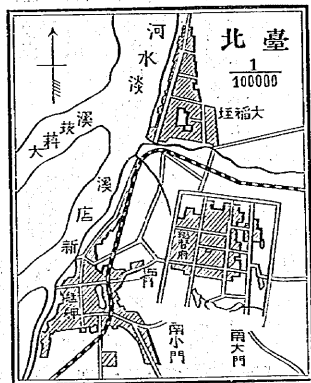
蕃瓜樹(熱地産し實汁多し)

等を以て主要輸出品とす、道路は漸次に新設若しくは改良
 せられ、北の方、基隆に起り、南の方、恒春に達すべき縦貫鐵道
 は殆ど成れり、輕便鐵道
 に數線あり、定期の航
 路には本島沿岸線の
 外、横濱、打狗線、神戸、基
 隆線等あり。
 臺北に總督府を置
 きて、臺灣、澎湖島を管
 轄せしむ、總督は民政部、陸軍幕僚、海軍幕僚、評議會等の中央
 機關に依りて、各般の政務を統理す、地方には二十廳を設く、
 司法に關しては、覆審法院、地方法院等あり、守備兵に二個の

臺北

混成旅團ありて、基隆、媽宮に要塞を設く。

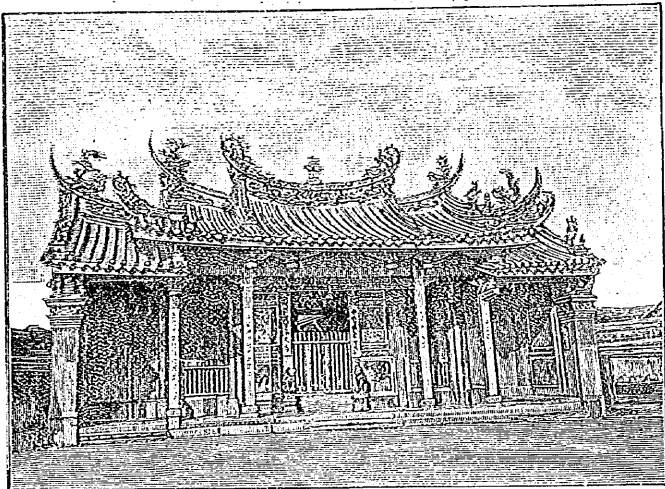
臺北は臺灣島第一の都會にして、淡水河の流域に於ける



平坦、開闢の地にあり、市街は府城、艋舺、大稻埕より成りて、總督府、覆審法院、其の他の官衙は城内にあり、艋舺は商賈多く、大稻埕は茶類の集散地なり、基隆は交通上の要區にして、開港の一なり、淡水は臺北の北西にあり、

臺灣第二の貿易場たり、新竹は農業地にありて、稍繁華なり。臺中、彰化は本島中部の要地たり、鹿港は當地方屈指の開港にして百貨の集散盛なり、嘉義は商業上の要區とす。

臺南



(北 臺) 院 寺

臺南は往時の臺灣府にして本島最舊の都會たり、周圍に煉瓦壁を繞らし、大小數門の設あり、官衙、寺院等多く、建築にも見るべきもの少なからず、商業繁榮して頗、殷賑の地なり、此の地の西方約一里に安平あり、港は船舶の碇繫に便ならざれども通商に従

事し取引稍盛なり、打狗も亦開港の一なるも商業は未だ盛況を呈するに至らず、目下は縦貫鐵道の終點たり、宜蘭は本島の北東岸に於ける名邑たり。

媽宮は澎湖島にあり、港は水深く風波の患少なく、優に大艦數十隻を泊すべし、實に軍事上樞要の區なりとす。

約説

◎住民

人口

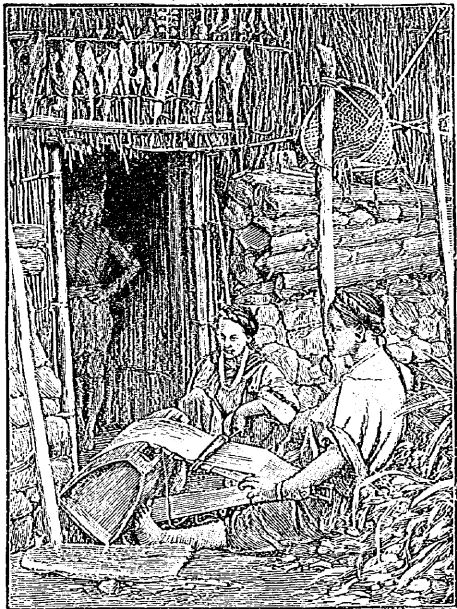


蝦夷種族

人口 我が國の人口は五千萬人に近くして、平均一万里につき一千八百餘人、一方、十九人につなれば、世界の諸國中、ベルギー、オランダ、イギリスに次ぎて、最、稠密なり、然れども疎密の度は地方に依りて異なり、往古より人生の發達せる處は甚、密にして、近年の開拓に係れる地方は極めて疎なり、而して人

種族

口の増加は速にして、六十年毎に二倍する割合なり、また海外在留日本人の数はアメリカ合衆國及其の領土を主として合計約十五萬人あるが、本邦在留外人は未だ多からず。



(蕃熟)族種海臺

種族 我が國の住民には大和支那蝦夷臺灣の四種族ありて、臺灣支那の二種族は南部に居り、蝦夷種族は北部に住し、國民の

大部をなせるものは大和種族なり。

大和種族はいはゆる大和魂を有し、信義を重んじ、忠誠に

して武を尚び、活潑鋭敏にして頗る思考力に富み、勇敢進取の氣象を備へ、技術に巧にして、殊に美術に長ず、然れども自重、忍耐の念に乏しく、目前の小利に奔りて、永遠の大事に着眼すること少なしと云ふ。

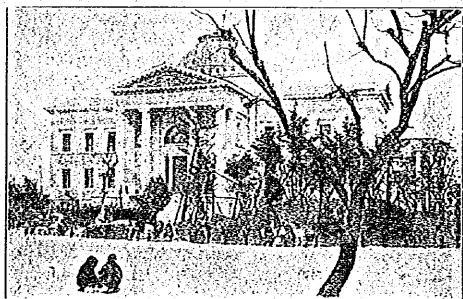
支那種族は臺灣に住す、舊支那より渡來せるものなり、勤勉にして勞働を厭はず、能く、辛苦に堪ゆれども、高

尚の思想に乏しく、阿片を喫する惡風あり、男子は辮髪し、女



(京東)學大國帝

子は小足を尙ぶ。



(大阪) 圖書館

蝦夷種族は北域に居住して、一にアイヌ種族と呼ぶる、往古に比すれば頗る減少して、凡そ一萬八千人あるのみ、蒙昧魯鈍の民なれども、溫良從順なり、男子は鬚髯甚多し、臺灣種族は臺灣の先住者にして、言語土俗等に基づけば、十餘の蕃種に分ち得べきが、文化の度に從ひて、熟蕃、生蕃と稱せらる、生蕃は殊に未開の民にして、中には今に頭顱を狩る惡風を有するものあり。

教育

教育

我が國には寒村僻邑に至るまで、小學校の設けあら

宗教



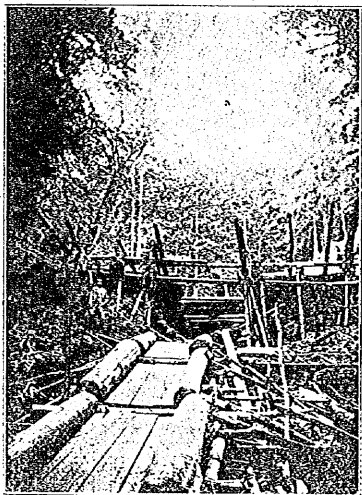
(大像) 長谷大佛 (鑄るに作せられたる)

は東京と京都とに置かる、また圖書新聞雜誌の發行次第に増加し、博物館、圖書館等の設置ありて人智は益進歩せんとす。

宗教 我が國民が信奉する宗教には神道、佛教、基督教、等ありて、孰も多くの分派を有す。

約説

神道は敬神の風に基づける我が特有の宗教にて、神道、大社、教、扶桑教、實行教、黑住教、修成教、大成教、神習教、御嶽教、等の十二派に分かる。



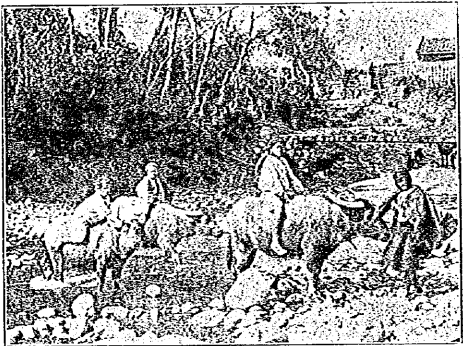
(林山曾木) し出山の木材

等之に次ぐ。

基督教は天文年間、我が國に傳來し、慶長の末に至りて嚴

佛敎は繼體天皇の朝、始めて我が國に傳はりてより、既に一千三四百年を経たり、多くの宗派の中、最、勢力あるは眞宗にして、曹洞、眞言、淨土、臨濟、日蓮、

森林



(湖臺) 童牧と牛水

禁せられしも、憲法が信敎の自由を認めしより、其の布敎漸盛なりと云ふ。

因に記す、儒敎は孔孟の敎を傳ふるものにして、此の道を信奉するものの數は著しからざるが如きも、其の勢力は却て他の宗派を凌げり。

◎ 生業

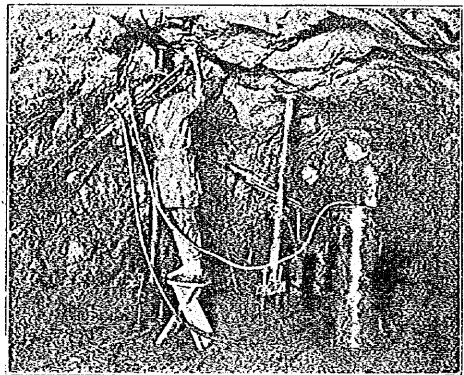
森林 本邦の森林は御料林、國有林、民有林を合はせて、二千二百萬町歩以上に達し、長野、秋田、北海道、臺灣、等に良林あり、而して林産には木材用に松、杉、

狩獵

樅、檜、樺、檜等あり、薪炭用に檜、樺等ありて、副産物としては樟腦、松脂、松煙、香茸、松茸等を得べし。

狩獵 本業は盛大ならずして、獵産には狐、貂、熊、鹿、狸、猪、兎等の獸類并に鷲、雉等の鳥類あるのみ。

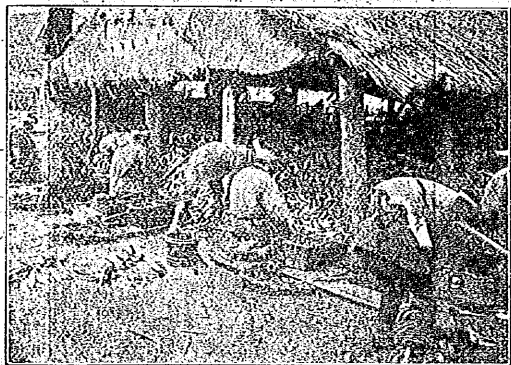
養畜



足尾銅山内 足尾銅山内
(足尾銅山内 足尾銅山内)

養畜 家畜には牛、馬の飼養稍多けれども、豚の数は少なしとす、また家禽にして廣く見らるるは鶏なり、而して養蠶は我が國主要なる産業の二にして、織物、其の他の原料たるべき蠶絲を與ふ。

耕種



製煉場 (北海) 道

牛 一三〇萬頭 廣島 岡山 長崎 兵庫
馬 一五〇萬頭 熊本 鹿兒島 岩手 北海道
耕種 我が國は古來農を以て國の基としたれば、農業は大に發達して、本邦無比の生業なり、穀類には國民の主食物たる米、麥を始として、粟、稗等あり、菽類には大豆、小豆、落花生、蔬菜には蘿蔔、甘藷、馬鈴薯等あり、此の外、甘蔗、煙草、綿、大麻、桑樹、茶樹等各種の栽培行はる。

米 五二〇〇萬石

新潟 兵庫 福岡 愛知

約

一〇七

麥	二〇〇〇	茨城	埼玉	愛知	栃木
甘藷	七、五〇〇 千	鹿児島	長崎	熊本	
煙草	一一五〇	栃木	茨城	鹿児島	

鑛産 我が國の鑛産

(五千四百萬圓)中、金屬の第一を占むるは銅にして、金、銀、鐵等之に次ぐが、非金屬には石炭の外に、石油、硫黃等あり。

銅 一七〇〇萬 秋田 栃木 愛媛
石炭 二八〇〇 福岡 北海道 佐賀



所造礦[ル-ビ]

水産

水産 我が近海は世界屈指の豐魚地たるを以て、鰹、鯛、鰹、

工業

鯖、鰯、烏賊等の漁獲あり、之に鰹節、鰯、控粕等の製品を加へば、七千萬圓以上に達す、また製鹽は降雨稀なる地方に行はる。

漁業	七〇〇 萬	北海道	千葉	長崎	静岡
鹽業	九〇〇	香川	廣島	山口	

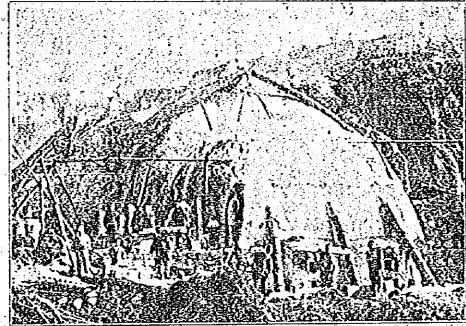
工業 本業は茶、油、蠟、藍、砂糖、酒、醬油、菓子、煙草等を造り、絲

類、織物、絹物、紙類等を製し、また摺付木、陶器、漆器、革類等と與ふれども、産額の著しきものは未多からずして、主要なるものは製茶、製絲、織物の三業とす、殊に機業は絹織、木綿織、絹綿交織、麻類等を製し、絹織は京都、木綿織は愛知を以て、主産地となすが、殊に輸出向羽二重は多く、福井地方に製出せらる。

製茶	七〇〇 萬	静岡	京都	三重	
蠶絲	二七〇	長野	群馬	愛知	埼玉 福島

商業

綿絲 三九〇〇萬
大阪 兵庫 岡山 愛知
織物 二四〇〇〇萬
京都 福井 愛知 群馬 大阪

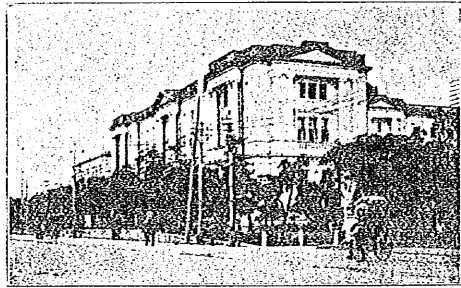


(縣知愛) 窯九戸瀨

ラシス、香港等にして、輸入先にはイギリス、イギリス領印度

商業 本業には内國に行はるものと貿易との二種あり、我が貿易高は七億圓以上に達するが、近年輸入は輸出に超過す、今主要なる輸出品を示せば綿絲羽二重、石炭、熟銅、摺付木、生絲等ありて、主要輸入品は繰綿、米、鐵物、石油、赤砂糖、麥粉、綿布等なり、輸出先の主なるものはアメリカ合衆國、清國、フ

交通



(京東) 行銀本日

アメリカ合衆國、清國等あり。

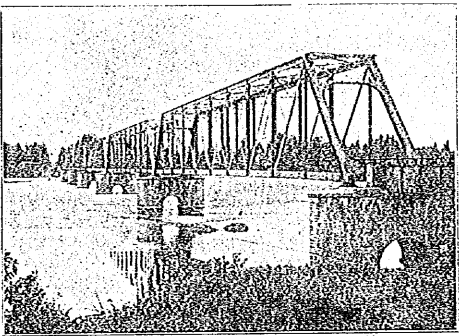
商港の中、内國商業のみに關する船舶の出入するものを普通商港と云ひ、外國との商業にも從事する處を貿易港、即開港と稱ふ、現今我が開港は横濱、神戸、大阪、門司、長崎、淡水、函館等四十餘所あり。

交通 交通機關に陸路又は水路に據るあり、郵便、電信、電話等あり。

陸路には道路と鐵道とあり、道路は九萬里に近くして、國道、縣道、里道に分かれ、凡百七十五萬の車輛を備ふ、鐵路には汽車、電車、馬車等の種類ありて、汽車

鐵道は既に五千哩を超えたり。

汽車鐵道は本州島に於ては、關東、近畿の兩地方に最、發達せるが、東北、東海、山陽等の諸線は幹線をなし、北越、信越、北陸、阪鶴等は主要なる支線にして、此の外、兩羽、海岸、中央、關西等の諸線あり、四國島の鐵道は著しからざるが、九州島の幹線には門司より八代を経て、鹿兒島に達せんとするあり、支線に長崎、宇佐等あり、十州島には函館、小樽、札幌、室蘭、岩見澤、旭川等を連ぬるものあり、臺灣島は縦貫線

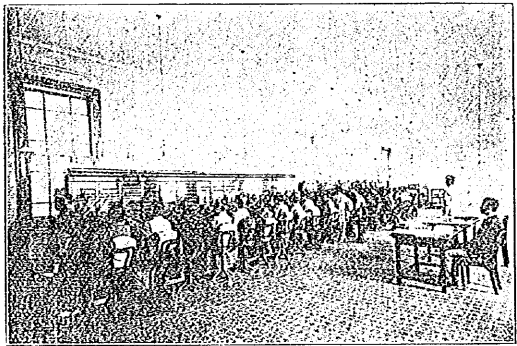


(縣鴻新) 橋鐵の線越北と川濃信

水路

を有す。

水路は航河、航湖、運河、海路を含む、沿岸、近海の航路は稍開



(京東) 部内局話電

けたれども、遠洋航海は未盛ならず、然れども日本郵船會社、大阪商船會社、東洋汽船會社等あり、其の船舶は神戸、小樽、横濱、小笠原間、横濱、打狗間、大阪、神戶、基隆間、函館、網走間等を往復し、尙、アジア大陸の東部、南部は勿論、アメリカ、オセアニア、ヨーロッパにも航行す、されば日章旗の下にある我が西洋形

船舶は一百萬噸を超えて、世界各國中、第五位を占むるに至れり。

郵便 郵便の制は我が國にては明治四年より行はれて、長足の進歩をなしたるが、郵便物の數は十億に餘り、平均一人につき凡そ二十二の割合なり、電信には架空線、水底線、等の設あるが萬國電信會議に加盟せられたれば亦國の内外に通信の便あり、電話は都會の地に多く行はれ、遠距離にも使用せられんとす。

●政治

政體 大日本帝國は立憲君主國なり、政權を分ちて立法、行政、司法の三とし、天皇陛下の之を總攬し給ふ所なり。立法權とは法律を制定する權にして、之を協贊するもの

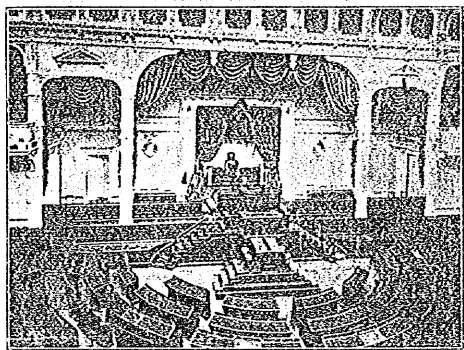
政體

立法權

電信

郵便

司法權



(京東) 部内院族貴

は帝國議會なり、議會は貴族、衆議の兩院より成り、各、若干の議員を以て組織す、貴族院議員には世襲、互選、勅選、多額納税の四種あり、衆議院議員總員三百七十九人は一定の資格ある臣民の選舉に係るものなり、此の兩院は法律を定むる、外國庫の收入、支出を議する任を帶ぶ。

司法權とは法律の實施を監督し、犯罪者を處罰し、訴訟を裁判する權能を云ふ、之を司るものに大審院、控訴院、地方裁判所、區裁判所あり、大審院は東京に置かれ、控訴院は七處に、地

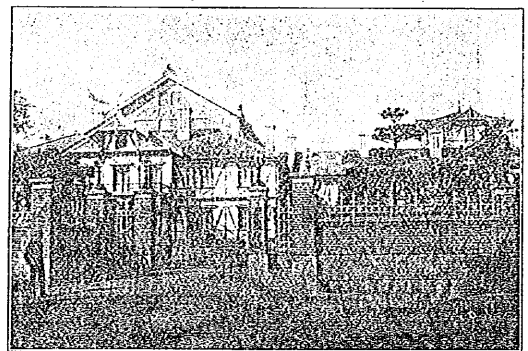
行政權

方裁判所は概縣廳所在地に設けられ、區裁判所は凡三百あ

り、各種裁判所に若干の判事、檢事を置く。

行政權は内閣及外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省を以て中央政廳とし、總督府、民政署、道廳府、縣及廳支廳、郡區役所、島廳等を以て地方政廳とす、此の他に樞密院、會計検査院、行政裁判所等あり。

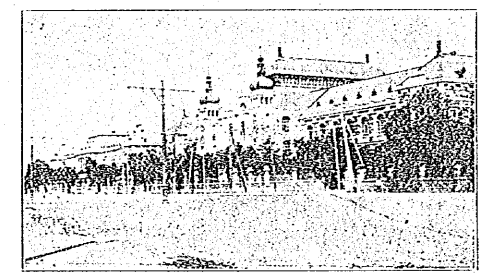
内閣には總理大臣、各省には大臣あり、總督府に總督、民政署及道廳に長官あり、府縣に知



(東京) 衆議院外部

行政區劃

事、郡區に郡區長、島廳に島司を置く。



(東京) 大審院訴訟地方裁判所

各市町村は自治制に依り、各役所役場を置き、相當の議會を設けて其の地の事務を司る、また韓國には統監府、關東州には都督府あり。

行政區劃 行政上の區劃には司法區、陸軍區、海軍區、山林區、土木區、稅務區、郵務區等種々あれども、最、主要なるものは府縣、道廳、總督府、民政署なり。

本州、四國、九州、沖繩等を管するものは三府、四十三縣なり、北海道は一道、廳三區、十六支廳の管轄に屬し、臺灣は一總督

兵備

陸兵

府、二十廳をして支配せしめ、樺太には民政署を設く。

帝國の郡數は六百を超えて、市は六十に近く、區は五に止

まるも、町は一、千餘、村に一萬餘あり。

兵備 我が國の兵備は海、陸兩軍

より成り、軍人には帝國臣民にして

滿十七歳より滿四十歳までの男子

より徵集せるものを以て之に充つ、

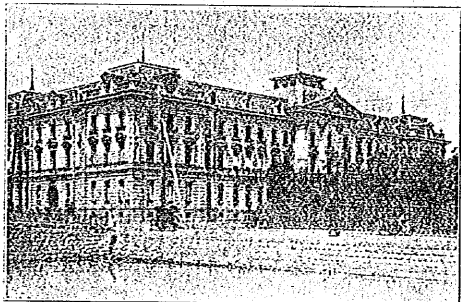
兵役には常備、後備、補充、國民の別あり、

常備役を分ちて現役、豫備役の二

とす。

陸兵には歩騎、砲、工、輜重の五種あり、

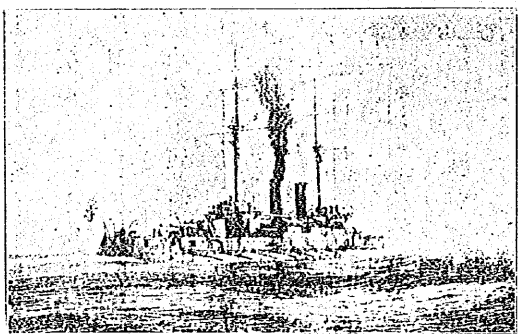
別に憲兵を備へ、十二師團を配置す、また臺灣には混成



(京東) 省務商農

軍艦

旅團を駐在せしめ、東京に近衛師團を置くが、韓國并に滿洲に各二師團を派遣す。



(噸百六千六萬一) 取香艦國戰等一

軍艦には戰艦、海防艦、巡洋艦、砲

艦、驅逐艦あり、水雷艇、潛航艇あり

て、艦艇の總噸數は既に三十萬噸

を超えたり、領海は四海軍區に分

たれ、各海軍區に軍港、鎮守府を置

く、鎮守府は横須賀、吳、佐世保、舞鶴

の外、尙旅順口にも設けられ、大湊

竹敷には要港あり。

軍事上の重要機關には元帥府、

軍事參議院あり、陸軍に參謀本部、

外交

海軍に軍令部を置く。

外交 我が國と修交、通商、航海に關する條約を締結したる國は二十五あり、之を條約國と云ふ、彼我互に大使、公使、總領事、領事、等を派遣す。

條約國

アメリカ合衆國	イギリス	ロシア	オランダ	フランス	ポルトガル
ドイツ	スウェーデン	ベルギー	イタリア	デンマーク	スウェーデン
ノルウェー	アイスバニア	オーストリア	ハンガリア	ベルギー	韓
シム	キシコ	清	ブラジル	ギリシア	コンゴ
獨立國	アル	ヘンチナ	チレ		

財政

財政 我が國の財政は從來佳良の情態なりしが、明治二十七八年の戰役後、歳出遽に膨脹したるを以て、國庫に餘裕あるを得ず、明治三十七八年戰役の爲、一層の増税を來たせり、今三十八年度の豫算に依れば、歳入は凡三億八千萬圓な

るに歳出は四億を超えて、陸海軍、國債、遞信、其の他の諸費に充てられ、歳入は主に地租、酒税、煙草專賣益金、印紙收入、郵便收入、海關税、等より得らる。

附 說

我が國は明治三十七八年戰役に依りて、韓國に宗主權、關東州に租借權、南滿洲に鐵道、鑛業等に關する特殊の利權を得たり。

◎ 韓國

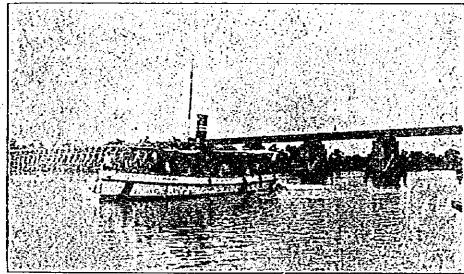
韓國は舊名を朝鮮と云ふ、アジア洲の東部に於ける半島國にして、北はアジアロシア并に清國に連なり、東は日本海に沿ひ、南は朝鮮海峽に瀕し、西は黃海に臨む、長は凡二百二十里あるも、幅は六十里に過ぎずして、面積は一萬四千一百方里(約二十二萬方杆)あれば、我が本州島より小なり。海岸は南と西とに於て多く屈曲し、島嶼も亦此の地方に

境域

海岸

山脈

河流



(大同江 平壤附近)

多し、殊に南西部の濟州島は當國の最大島なり。

山脈は北部に長白、江南、妙香等ありて、略々南西より北東に赴き、南部に太白聯脈、小白聯脈の南北に走るあり、白頭山(二千七百米突)、金剛山最著はれ、土地は北と東とに高く、西部と南部には平地あり。

河流は三斜面に屬せしむることを得、黃海斜面には滿洲との境を流るる鴨綠江(百餘里)を始とし、大同江、漢江、錦江等あり、海峽、斜面には洛東江流れ、日本海斜面に豆満江ありて、亦國境をなし、其の長、鴨綠江に次ぐ、而して洛東

氣候

天産

住民

江、錦江の沿岸には佳良なる平野あり。

氣候概大陸的にして、寒暑の差甚し、然れども暖流の影響

を蒙る南東地方は稍

溫和なり、降雨は夏季

に最多く、積雪は處に

依りて、丈餘に及ぶと

云ふ。

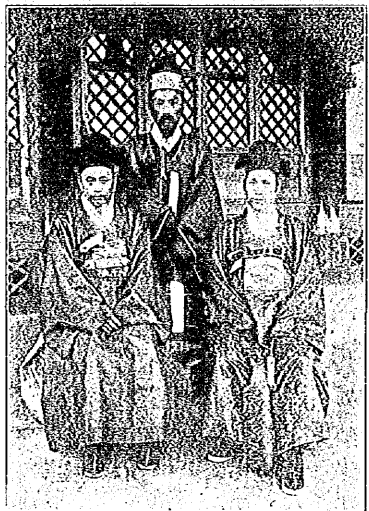
天産は豊富ならざ

れども、礦物には金、銀、

鐵等あり、植物に松、樅、楊等あり、虎、豹、鶴、鷺、明太魚等の動物も

少なからず。

韓人の容貌骨格は我が日本人に酷似せるが、人口は約一



(城京) 官高

千萬人と計上せらる、儒教行はれ、中流以上の人は漢字、漢文を使用するが、普通には諺文と稱するもの行はる教育は

オモ

進歩せずして、女子の文

字を學ぶものは甚稀な

り、國人は一般に膽力な

く、遊惰の風あり、兩班、中

人、常漢等の階級存す、衣

服は筒袖の上衣と廣濶

なる袴とを用ひ、食物は



(城京) 女婦

米麥を主とし、住屋には瓦屋、茅屋の二種あるも概矮陋にして、溫突の設あり。

牛、馬、犬、豚等を飼養し、明太魚、鯛、鱈、鮭等を漁獲するの外

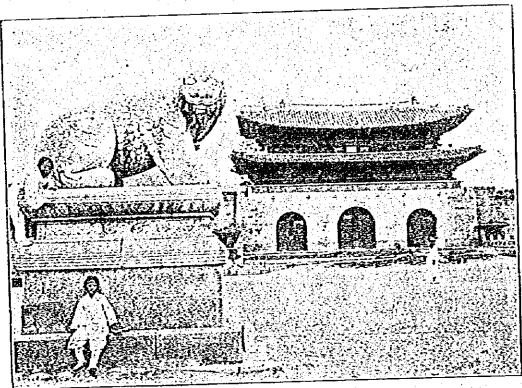
生業

政治

農産には米穀、豆類、人參等ありて、鑛産は金を主とす、貿易は輸出入合計二千餘萬圓に過ぎざるが、輸出物には金、豆類、米、牛皮、紅人參等あり、八處の貿易港中、仁川、釜山、元山は最、名を知らる、道路は未、發達せざるが、鐵道には京釜線、京義線、京仁線等ありて、沿海の航海と共に日本人の經營に屬し、郵便、電信、電話も漸次面目を改む。

當國は上古以來、我が國と關係深し、殊に三十七八年の役、ロシア連敗の結果は日韓の協約と成り、我が國は統監府を京城に、理事廳を要地に設けて、韓國の外交、其の他の政務を指導監督せしめ、また守備軍を駐屯せしむるが、韓國皇帝は中央に議政府并に内部、度支部、軍部、學部、法部、農商工部を設け、地方の十三道に觀察府を置く。

京畿道 本道は韓國の中部にありて、漢江、臨津江相合し



(城京) 子獅子と門化弘

北	關	西	關	面
江	咸	咸	平	京
原	鏡	鏡	安	畿
春	興	境	安	水
川	興	城	南	原
合計	南			面
一	忠	忠	全	慶
三	清	清	羅	尙
	北	南	南	北
	州	公	光	大
		州	州	邱

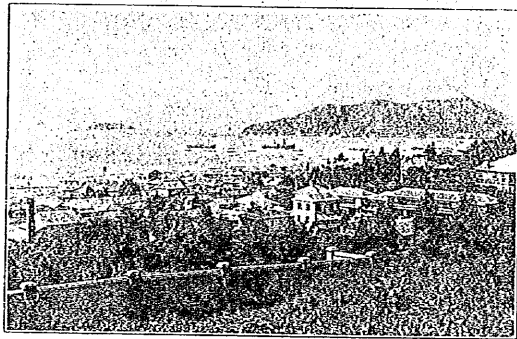
て西流し、遂に黃海に入る、沿岸の島嶼中、江華島は、最、著名なり。

京城

京城は韓國の首都、我が統監府の所在地にして、人口は二

仁川

開城

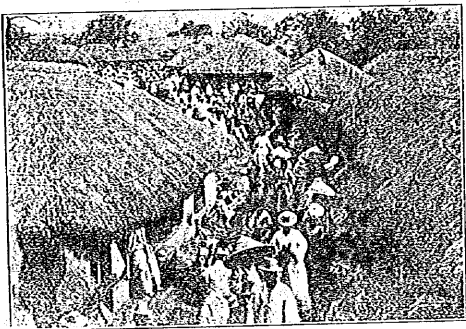


し、當國第三の都會とす。

仁川港

十萬に近く、此の國の政治又は文化の中心なり、本府は漢江の北に位し、三方に山脈を控へ、周圍に胸壁を繞らして、數門を備ふるが約一萬の日本人は市の南部に住居す。
仁川港は一に濟物浦と云ふ、潮汐の干満甚しけれども、好位置にあるを以て、當國最要の貿易港たり、在住日本人は一萬三千人に近し、開城は一に松都と呼ばれ、舊都の地なり、人參を産

平壤



關西面

關西面は黃海に沿ひ、大同江、清川江、鴨綠江、等の流域を含みて、土地南西に傾き、耕地多からざるも、鑛山、森林少なからず。

平壤は當國第二の都會なり、大同江に瀕する要地にして、古來其の名著はれ、開市の一たり、鎮南浦は大同江の下流に於ける開港にして、有望の地なり、義州は鴨綠江に臨み、戰史に名を知らる。

關北面 關北面は韓國の北東部に當りて、日本海に沿ひ、豆滿江を以て北を限れるが鴨綠江、漢江の上流は此の地方に屬せり、平地并に港灣には乏しけ

元山

れども、天産少なからず。

慶興は邊境の要地なり、城津は開港なり、元山は德源灣に

臨み、當國屈指の貿易港を有す、

蔚陵島は木材に富む。

三南面 三南面は韓國の南

部を占めて、日本海を東にし、黄

海を西にし、南は朝鮮海峽に臨

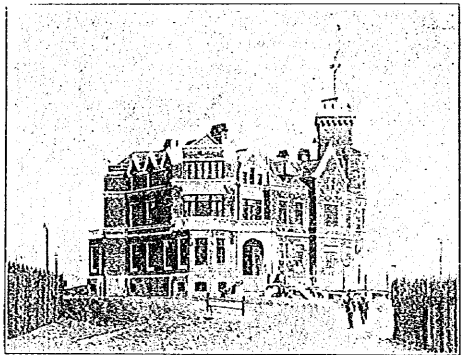
み、海岸は屈曲に富み、島嶼頗多

し、河江の西流するものに錦江、

榮山江あり、南流するものに蟾

津江、洛東江あり、沿岸には平野

廣くして、韓國の富は三南にありと稱せらる。



(連大) 部令司縣備防

大邱、釜山

大邱は肥沃の地にありて、農産を集散す、釜山は下關より十一時間にして達すべし、韓國最舊の貿易港にして、交通の要地たり、住民の多數は日本人なり、馬山は貿易に従事し、鐵

道の便を有す、木浦、群

山も亦開港なり、全州

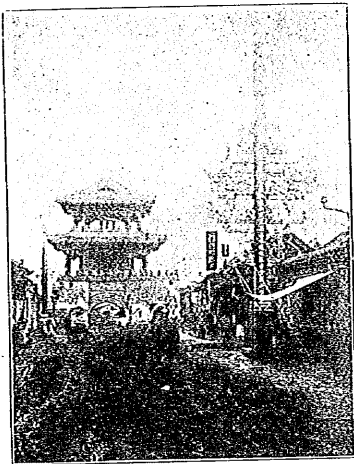
は簾を産し、公州は市

場として知らる、濟州

島は漁利多し。

關東州は舊、ロシア

關東州



(天奉) 街路鐘
ゆ見に方右てしに權鐘はるあに面前
りな板石はのもる

が清國より租借せし處なりしが、ポーツマス條約の結果、我が手に移れり、此の地は滿洲の南端に位し、渤海と黄海との

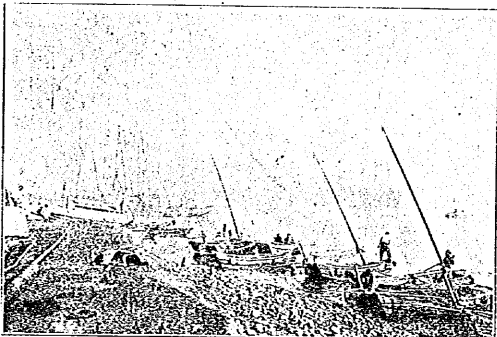
旅順大連

間にありて、一小半島二百方里をなせり、戦地として有名な旅順口には關東都督府、鎮守府を設けられ、大連は同名の

灣に瀕し、自由港を有す。

●南滿洲

南滿洲はポーツマス條約に依て、帝國が特殊の權利を有する地なり、我が管理に屬する鐵道は大連より長春(寬城子)に至る幹線并に數條の支線より成りて、撫順炭坑等も亦日本人の採掘に委ねらる、域内には有名



口營の中雨

なる戰場多し。

奉天

遼陽

營口

安東

奉天は清國の舊都、滿洲第一の都會にして、市街は内外二重に城壁を繞らし、開市の地にして、物貨の集散盛なり。遼陽は遼河の支流に沿ひ、酒、家具等を製す。營口は西洋人の牛莊なり。遼河の下流に臨む開港にして、豆類、豆粕等を輸出す。安東は鴨綠江に瀕す、開港の一にして、盛に木材を輸出す。輕便鐵道安奉線の起點なり。

女子教科帝國地理 終

附錄

(一) 畿道國表

畿道	畿內	東海道	東山道	北陸道	山陰道	山陽道	南海道
國數	五	一五	一三	七	八	八	六
國	山城 大和 河內 和泉 攝津	伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐 伊豆 相模 武藏 安房 上總 下總 常陸	近江 美濃 飛驒 信濃 上野 下野 磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後	若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡	丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見 隱岐	播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門	紀伊 淡路 阿波 讃岐 伊豫 土佐

北海道	西海道
一 十勝 釧路 根室 千島	二 豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 肥後 日向 大隅

(二)行政區劃表

地方府縣	管轄區域	面積	現住人口	一付里	管轄廳
東	東京一市、八郡、伊豆 神奈川二市、十一郡 埼玉九郡 千葉十二郡 茨城一市、十四郡 栃木一市、八郡 群馬二市、十一郡	一三八、一三 一五、四〇 二四九、二 三三五、八 三九八、四三 四三六、三五 三九四、六五	二五〇、九二五 一〇四、三三〇 一三三、八九八 二〇、八五三 一九、九二五 九二、四四九 九二、四四九	一八八、八 六九三、〇 四九七、三 四〇二、 三〇〇、 二三八、 三三九、	東京 橫濱 浦和 千葉 水戸 宇都宮 前橋
計	七市、七十三郡	二〇二、五	九二、一九五	四三〇	

本											
東海			濃兩			北陸			奥		
山梨	静岡	愛知	岐阜	長野	計	福井	石川	富山	福島	宮城	山形
一市、九郡	一市、十三郡	二市、十九郡	一市、十八郡	一市、十六郡	二市、三十四郡	一市、十一郡	一市、八郡	二市、八郡	一市、十七郡	一市、十六郡	二市、十一郡
二九七、三三	四九五、三八	三九、一五	七〇六、〇一	八八、七五	五八四、七六	二五七、〇二	二七、四七	三五九、一六	八九五、三五	四八三、八九	五九七、三五
五四、〇八七	二九、〇七六	一七四、六八五	一〇、九七〇	一四、七五一	三三六、七三	六三、三七五	七、三七〇	一七、五二〇	一七、四〇四	八九、九二七	八七、七〇四
二八六	三〇六	五四七〇	一四四五	一五三	一四九三	二四六〇	二九八	二九六	二二二	一八八	一四六七
甲府	静岡	名古屋	岐阜	長野		福井	金澤	富山	福島	仙臺	山形

州									
羽			近			畿			中
秋田一市、九郡	岩手一市、十三郡	青森二市、八郡	計 八市、七十四郡	滋賀一市、十二郡	京都一市、十八郡	奈良一市、十郡	三重三市、十五郡	和歌山一市、七郡	大阪二市、九郡
七三四、三九	一〇三九、四三	六三六、一八	四三六、四九	二二六、二〇	二九三、八五	二五八、三五	三五、二八	二九三、四六	二〇、一九
八三、五〇六	七四、八二四	六五、九五八	五一九、三六四	七一、四五八	一〇四、七三四	五五、七六一	一〇四、三四一	六九、六七八	一八、五〇〇
一二七	七六	一〇三六	一八四	三二五八	三五七五	二二五八	二九七〇	三三九	三四〇八
青森	盛岡	秋田		大津	京都	奈良	津	和歌山	大阪
山口	廣島	岡山	神戶	大阪	和歌山	奈良	津	和歌山	大阪

國									
國			國			國			州
德島一市、十郡	香川二市、七郡	愛媛一市、十二郡	高知一市、七郡	合計 五市、三十六郡	合計 四十五市、四百二十九郡	計 七市、六十八郡	鳥取一市、六郡	島根一市、十六郡	鳥根一市、十六郡
二六九、〇五	一一〇、八〇	三六三、三九	四八四、九七	一二七、二	一、四〇六、五四	二〇四七、四八	三三八、八五	四三七、四四	四三七、四四
七〇、六八三	七〇、五四〇	一〇三、三三四	六四、三五四	三〇八、八〇三	三六六、〇四四	四八五、四四五	四三、三九三	七三、八八七	一六六六
三三三	六三六六	二八四八	一三六	三五六	二四六六	三三七	一八九六	一八九六	一八九六
德島	高松	松山	高知	福岡	大分	宮崎	長崎	佐賀	熊本

北 海道、廳三區、十六支廳	鹿兒島一市、十二郡		合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	五九、五一	二八、一八七				
北 海道、廳三區、十六支廳	二七、四〇八	六九、九一八	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	六五、〇〇	一〇七、七三〇				
北 海道、廳三區、十六支廳	二六〇、〇〇	?	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	四七、五九三	?				
北 海道、廳三區、十六支廳	一四三、六六	三〇七、九六三	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	三三、〇〇	一三一				
北 海道、廳三區、十六支廳	九、九五四	三六、〇五六	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	二八、八六三	二八、五〇三				
北 海道、廳三區、十六支廳	二、一九六	九	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	八、五六五	一〇、〇三三				
北 海道、廳三區、十六支廳	七、九三六	一五	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	一八	六、六〇六				
北 海道、廳三區、十六支廳	六、八三四	一八	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	一八	一八				
北 海道、廳三區、十六支廳	九、九五四	三六、〇五六	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	二八、八六三	二八、五〇三				
北 海道、廳三區、十六支廳	二、一九六	九	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	八、五六五	一〇、〇三三				
北 海道、廳三區、十六支廳	七、九三六	一五	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	一八	六、六〇六				
北 海道、廳三區、十六支廳	六、八三四	一八	合計 九市、八十郡	域 樺太民政署	南 沖繩縣二區、五郡	域 臺灣總督府二十廳
	一八	一八				

(三) 主要都會現住人口表 (明治三十六年末調)

順	都會	人口	順	都會	人口	順	都會	人口
一	東京	一、八六五、五	二	大阪	九、九五四、五	三	京都	三六、〇五六、八
四	橫濱	三、六〇三、五	五	名古屋	二八、八六三、九	六	神戶	二八、五〇三、三
七	長崎	一五、三三九、三	八	廣島	一二、一九六、六	九	仙臺	一〇、〇三三、三
一〇	金澤	九、九六五、七	一一	臺北	八、五六五、五	一二	函館	八、五三三、三
一三	岡山	八、一〇三、五	一四	小樽	七、九三六、一	一五	福岡	七、一〇四、七
一六	和歌山	六、八五三、七	一七	佐世保	六、八三四、四	一八	吳	六、六〇六、六

一九	德島	六、三七〇、〇	二〇	熊本	五、九七二、七	二一	新潟	五、九七二、七
二二	鹿兒島	五、九〇一、一	二三	富山	五、六二五、五	二四	札幌	五、五三〇、四
二五	堺	五、五〇四、〇	二六	福井	五、〇一五、五	二七	静岡	四、八七四、四
二八	(大稻埕)	四、八六八、八	二九	臺南	四、八〇九、七	三〇	下關	四、六二五、五
三一	甲府	四、四一八、八	三二	那覇	四、三三三、三	三三	前橋	四、一七四、四
三四	山形	四、〇三六、五	三五	岐阜	四、〇一六、八	三六	大津	三、九五四、五
三七	門司	三、八〇六、五	三八	松山	三、七八四、三	三九	高松	三、七四二、〇
四〇	長野	三、七〇三、三	四一	横須賀	三、六九六、六	四二	水戸	三、六九二、八
四三	小倉	三、六二五、五	四四	姫路	三、六五〇、九	四五	弘前	三、六四四、三
四六	津	三、六四〇、八	四七	宇都宮	三、五九三、三	四八	高知	三、五五八、八
四九	高崎	三、五三六、六	五〇	佐賀	三、五〇八、三	五一	松江	三、五〇八、一
五二	青森	三、四八五、七	五三	秋田	三、四三三、五	五四	奈良	三、三七五、五
五五	宇治山田	三、三六二、七	五六	松本	三、三三九、三	五七	久留米	三、三七五、五
五八	米澤	三、三〇六、三	五九	若松	三、三三三、四	六〇	盛岡	三、一八六、一
六二	長岡	三、一三三、〇	六三	高岡	三、一一九、九	六四	足尾	三、一〇七、七
六五	鳥取	三、一〇三、三	六六	大牟田	三、〇五九、九	六七	大牟田	三、〇五九、九

K230, 24-132

吉九龜	三、〇四〇	六桐生	三、〇三三	充千葉	二、八七六
吉藤(柳)	二、八五六	七豐橋	二、八三五	七福島	二、七三三
吉八王子	二、六〇〇	七熱田	二、六三四	吉川越	二、五九六
	二、五二三	七榑木	二、五〇一	吉足利	二、五三四

女子
教科帝國地理
附

定價金五拾五錢

明治三十九年十二月十六日印刷
明治三十九年十二月二十日發行
明治四十年二月八日修正印刷
明治四十年二月十一日修正發行



著者 野口保興
東京市本郷區西片町十番地

發行者 目黒甚七
東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行者 河出靜一
東京市日本橋區通三丁目十番地

印刷者 佐久間衡治
東京市京橋區西紺屋町廿六、七番地

販賣所

東京市神田區南藥物町九、十番地
特電話本局八九二番一六四番

明治圖書株式會社

230-202

女子高等師範學校教授
早稻田日本兩大學講師野口保興先生新著

帝國新地圖 全

(女子教科帝國地理の附圖とすべし)(一)

定價凡金四拾錢
近刊

